

平成27年度 第3回茨城県第4採択地区教科用図書選定協議会

1 日 時 平成27年7月16日(木) 午前9時30分

2 会 場 茨城町役場 2階 大会議室

3 内 容

<事務局>

定刻となりましたので、要項に従いまして進めさせていただきますが、会に先立ちまして、本日の進め方について確認させていただきます。

はじめに、中学校用教科用図書、学校教育法附則第9条の規定による教科用図書(特別支援学級教科用図書)、小学校用教科用図書の審議を行います。その後、法改正により資料等の公開に努めることと定められましたこと等への対応について協議していただきます。最後に諸連絡を行います。

「開会のことば」本選定協議会副会長、大洗町教育委員会教育長、飯島郁郎様お願いいたします。

開会のことば 副会長 大洗町教育委員会教育長 飯島郁郎 様

教科用図書選定協議会会長あいさつ

<会長>

皆様おはようございます。お足下の悪い中お運びいただきましてありがとうございます。今日いよいよ第4採択地区の中学校用教科用図書が採択ということになります。2日ないし3日という非常に短い期間での調査ではありましたが、それぞれの市町から派遣して下さった先生方を中心にして調査部会の方も熱心に調査をして下さいました。その結果が十分に反映されるようにしたいと思っております。委員の皆様のご審議を十分にいただきまして、子ども達にとってよい教科書が決定されるようによろしくお願ひしたいと思います。お世話になります。

<事務局>

ありがとうございました。

採択についての審議に移りますが、その前に、6月19日に茨城町教育委員会教育委員長飯田健様のご退任なされ、新しく萩谷元男教育委員長が就任しましたことを御報告いたします。

それでは、本選定協議会規約第7条によりまして、議事の進行は会長が行うこととなっております。鈴木会長、よろしくお願いいたします。

議事

採択についての審議・議決

<会長>

それでは議事を進行させていただきたいと思います。議事の進め方ですが、各教科ごとに審議及び議決していきます。

教科の順番は、国語・書写、社会（地理・歴史・公民）・地図帳、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語、特別支援教育の順で行います。各教科の議決までの流れについては、まず最初に調査部会からの報告をいただきます。次に調査部会への質疑をおこないます。ここで部長さんには退席していただきますけれども、必要に応じてまた入っていただくこともあるかと思います。審議・議決をへて採択理由書の検討を行います。これだけの内容を1教科およそ30分の予定ですので、非常に窮屈な日程ですが、慎重な審議をしながらもスムーズに進行できるよう努力してまいりたいと思いますので、なにとぞお力添えをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、はじめに国語調査部会からの報告をいただきたいと思います。

事務局、調査報告書と国語の教科用図書の見本本の配付をお願いいたします。

調査報告書・国語教科用図書配付

国語調査部長入室

<会長>

それでは、国語科の部会から説明をお願いいたします。

<国語調査部長>

国語部会での調査内容についてご報告させていただきます。

国語部会では、5社の教科書について調査し、その結果をまとめたものが、お手元の資料です。その資料をもとに各教科書の特色について、特に、1「学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について」と2の「内容の程度及び取り扱いについて」を基本に生徒の視点に立った言語活動の充実や「読むこと」の基礎的・基本的事項の定着、主体的に学ぶための配慮点を中心に簡単にご報告させていただきます。5社とも、それぞれの特色をもっております。

まず、東京書籍につきましては、「読むこと」の単元を中心に小教材で全領域を扱ってい

ます。さらに「話す・聞く」交流活動では、話し合い活動の視覚化に配慮されています。

古典で比べてみると、古典の学習では、作品に紹介文や解説文を加えたり、絵巻などの資料を豊富に示したりして、視覚的に作品の世界観を深く味わえるように配慮されています。

次に、学校図書につきましては、「読むこと」の領域の単元を多く設定し、計画的に「話す・聞く」活動が位置づけられています。古典の学習では、その作品との出会い、表現に大きく影響を及ぼし、現代とのつながりを示すことを配慮しています。

次に、三省堂につきましては、「読むこと」の領域を多く設定しながら小教材で全領域を扱っています。「話す・聞く」活動が複数の形態で設定されています。

古典では、歴史上の人物の和歌を紹介したりして配慮されています。

次に、教育出版につきましては、「読むこと」の領域を中心に小教材を全域で扱っています。段階的な「話す・聞く」活動が示してあります。古典の学習では、地図や写真等複数の資料が古文と対応できるように配慮されています。

最後に光村図書につきましては、「読むこと」の領域を設定しながら小教材で全教材を扱い、「話す・聞く」での交流活動が具体的に示されています。古典の学習では、古典について丁寧に解説した文章が掲載され2・3学年では、2単元配慮されています。

続きまして、調査していく中で話題となった東京書籍と光村図書の教科書について説明させていただきます。

1番最初に、学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について、国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるためにどのように配慮されているかということ、両方とも「読むこと」を中心に上げております。東京書籍においては、導入部に「学びの扉」を設けて非常に学びやすいように作られています。光村図書では、小教材（練習教材）を取り上げて興味関心を高めています。

「話す・聞く」の交流活動では、東京書籍では、具体例を示し、話し合いの視覚化に工夫されています。光村図書においては、具体例が多数示されています。

東京書籍の300ページに「ディベート」「パネルディスカッション」「チャート式討論」というものが載っています。

光村図書では3学年の270ページに「会議」「ブレインストーミング」「パネルディスカッション」「グループディスカッション」「シンポジウム」「ディベート」が6例載っております。

活動例だけ見ると光村図書の方が多いのですが、東京書籍の方は内容を視覚化して興味深くという特色がありました。

次に、思考力や想像力及び言語感覚を豊かにするためにどのように配慮されているかについてです。

東京書籍では、説明的な文章での比べ読みを通して、生徒の多面的な考えを培う教材があります。これは、3学年のみですが、94ページ『黄金の扇風機とサハラ砂漠の茶会』

で示されています。実際に読み比べという教師サイドのことですが、子ども達が身近に感じるということでは有効であると思います。

光村図書では、説明的な文章では、図表やグラフを多用し、「学習の窓」において内容理解のためのヒントを示し、「次へつなげよう」では、学習を振り返り自己評価ができるように工夫されています。自分で学習できるような工夫が見られます。

国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるために、どのような配慮がなされているかということにつきましては、古典において、東京書籍は1学年の128ページの導入は身近な話題、猫やいそほものがたり（イソップ物語をもじったもの）であったり、写真が多く掲載されていたり、様々なジャンルの作品が取り上げられており、伝統的な言語文化に親しむことができるよう工夫されています。

光村図書は、導入に1学年の140ページにありますように「いろは歌」が取り上げられ、また、漢詩については、丁寧に解説されており、古典特有のリズムに親しめるよう配慮されています。

次に「基礎・基本の定着のための工夫」についてです。

東京書籍では、1学年の230ページ「学びを支える言葉の力」のページで、「読むこと」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域に共通して必要となる基礎的な知識・技能を身に付けることができるよう工夫されています。古典の学習では、作品に紹介文や解説文を加えたり、絵巻などの資料を豊富に示したりして、視覚的に作品の世界観を深く味わえるよう配慮されています。

光村図書では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」において、本教材の前に1学年の40ページにみられるように「練習」のページを随所に設け、基礎・基本の定着を図ろうとする工夫が見られます。古典の学習では、1学年と3学年に、古典について解説した文章が掲載され、中学校での古典学習の導入とまとめが丁寧に示されています。

次に「関心・意欲を高め、主体的な学習活動を促すための工夫」では、主体的に学習する力を育てる教材の取り扱い方について、どのような工夫が見られるかについてです。

東京書籍では、自主的・主体的な学習活動ができるよう「てびき」に目標を示し、「読み取る」「考えを深める」において具体的な視点を設けています。

光村図書では、自主的・主体的な学習活動ができるよう「学習」に目標を示し、「確認しよう」「読みを深めよう」「自分の考えをもとう」において、具体的な視点を設けています。

どこが違うのかを具体的に説明したいと思います。共通教材である「少年の日の思い出」で説明します。1学年の東京書籍169ページ「てびき」と光村図書216ページの「学習」の比較を例に取ってみます。自ら読みを深めていくことができるということと考え、光村図書は「確認しよう」となっています。「てびき」では冒頭の場面から少年時代の体験を振り返る、客の思いをとらえる、ということになっています。場面については「てびき」では5番目の「考えを深める」に場面構成が入っています。ということは、指導者の力量が問われるところだと思えます。違うところは「表現」というのを特に例示してい

る点です。光村図書はこの例示を使うことによって基礎・基本を押さえさせようとしています。1学年の段階で基礎・基本を押さえるということは表現力を補う上では良いことだと思います。また、自分で勉強できる自主的な態度が扱えるのではないかと思います。光村図書はこの教材以外でも一貫して同じような考え方を持っていると思います。

また、入門期の古典においても同じようなことがいえます。1学年の東京書籍147ページ「てびき」と光村図書156ページの学習の「竹取物語・蓬萊の玉の枝」です。東京書籍の「てびき」では「読み取る」の中に「歴史的仮名使いや古典のことばの意味、古典特有の文末表現に注意して繰り返し音読し、暗唱してみよう」とあります。光村図書では、具体的な例を子どもが勉強できるように示しています。

次に単元の分量についてです。東京書籍は「読むこと」53、光村図書は66の教材を配しています。これは、興味関心、読書活動への足掛かりにしようということが見て取れます。

最後になりますが、教材の善し悪しよりも、学力の向上は、個々の教師の力量です。しかし、生徒にとっては、自分で学習する拠り所はこの教科書以外にないわけです。ですから全体を通して「読み」の文脈・語録・語句等をしっかり押さえ、主体的な学習活動を展開できるのはどれかということを考えていただきたいと思います。以上です。

<会長>

ありがとうございました。今、部長のほうから説明がありましたので、これに関しまして質問がある方はお願いいたします。

<会長>

特によろしいでしょうか。

では、私の方から質問してよろしいでしょうか。

今、東京書籍さんと光村図書さんを比較しながらご意見をいただきました。「読むこと」についての教材の数が53と66ということですが、本県特にこの地域の子供達にとって、「書くこと」も苦手意識を持っていることの一つだと思うのですが、「書くこと」に関しての教材の比較についてはどのようになっていますか。

<国語調査部長>

「書くこと」に関しては、光村図書は28、東京書籍は16です。

<会長>

ありがとうございました。

<委員>

先ほど、教師の力量が問われるというお話がありましたが、例えばどんな力量が問われるのですか。

<国語調査部長>

例えば「少年の日の思い出」ですと、場面構成から入るかあるいは課題構成からはいるかというのがあります。自分の感想を述べて学習課題をやる先生もいますし、場面構成をおさえてそこから自分の好きな語句をとらえようという先生もいると思います。そこが力量です。流し方というのは先生の力量だと思います。どこにポイントをおくかで流し方は変わります。ただし、子どもの拠り所は教科書ですから、基本をおさえておけば教師の力量にも対応できると思います。

<会長>

よろしいでしょうか。

<委員>

力量によるという学校の授業は果たしてどうなのかと思うのですが。力量に達している先生ばかりではないと思うので。

<国語調査部長>

ですからこのような「てびき」を参照にしたり、あるいは指導書もあります。ただ教材研究の深い先生と浅い先生とでは差が出る。そして最後は子ども達と会話ができる、それが力量・裁量です。それが目に見えない力です。これが学力に繋がる可能性が高いのです。

<委員>

それはわかりますが、果たして同じ力量の国語の教員が育つのでしょうか。ひとつのラインがあって、それ以上のことは教師の力量になるわけでしょうけど。勉強会や意見交換をしながらそれに達してもらえればいいと思いますが。

<国語調査部長>

そうですね。Cは普通です。Cであれば一般の先生ですが更に上に行くというのが我々の使命です。

<会長>

それでは申し訳ありませんが、この後の審議も十分に重ねたいと思いますので、これで質問の方はよろしいでしょうか。

短期間の中でこれだけの調査をしていただきましてありがとうございました。お世話に

なりました。

国語調査部長退室

<会長>

今お聞きになった通り、東京書籍と光村図書の教科書についてご説明がありました。二つの教科書を比較しながらのご意見もございました。この中で決定しなければなりませんのでみなさんからご意見をお伺いしたいと思います。

<委員>

教師の力量による所が大きいという調査部長さんからのお話がありましたが、教科書採択の視点からいうと、教師の力量に応じて教材をみるのか、子どもの学びの視点でみるのかという、教師の力量の部分だけを強調しても教科書採択の趣旨からいうと、内容に則ってという方が良いのかなという印象を受けました。

<会長>

ありがとうございます。いかがでしょうか。

<委員>

私も同感です。

<会長>

要するに、どの教科書が子ども達にとって有効かということを考えるのが私たちの使命だと思います。そこには多少教師の力量もありますが、先生の力は千差万別。いろいろあるので、どんな先生に当たってもこの教科書でやれば子ども達が主体的に勉強するのではないかという論法だと思いますので、これについてはちょっと乱暴かなと思います。もっと内容的なことで考えていく必要があるのかと思います。いかがでしょうか。例えば、この地域の子供達は「話すこと」が苦手です。県内全体的にそのようなことがいえて、各学校で話す力を高めるということでいろいろ工夫して学習に取り組んでいますが、こういったことがより具体的にわかりやすくできることというのは、視覚化された内容ですとか、(非常に具体的なものであったり)、それから話し合いの活動をどのように進めていくのかといったことについても有効な方がよいのかなと考えます。そのようなことで部長の方から説明があったのですが、例えば「話すこと」一つ教材にとった場合に、東京書籍は視覚化に配慮されているというのがいくつかでてきます。古典についても、「視覚的に作品の世界観を深く味わえる」というように書いてあります。今の子ども達というのは、視覚を抜きにして学習は成り立たないくらい情報がありますので、そういった意味では子ども達の

実態を考えていってもよいのかなと個人的には思います。

<委員>

今日の説明では「読むこと」の重点が光村図書さんの方がというお話でしたが、私は光村図書世代なんです。使った教科書は光村図書でした。その頃からの流れで読み深める教材としては光村図書というように思います。そして会長さんは「書くこと」とおっしゃいましたが、表現力に重点を置いてきたのが東京書籍さんの構成かなと思います。

今の子ども達に、表現力とか「書くこと」に力を入れてやっていくなら東京書籍かなと思うし、一つの教材を読み込ませるなら光村図書さんだと思います。光村図書さんは二教材並列で構成してます。練習教材と本教材というようなかたちで一つの単元をまとめて、練習教材で学習がうまくいかない子はそこで基礎を学んでから本教材で発展的なものへ繋げていく。東京書籍さんの場合はそのような教材を通して表現力まで、また視覚に訴えるということでは東京書籍さんのほうが資料などはたくさんあるのかなという印象を持ちました。

<会長>

それではいくつか意見が出されましたが、そろそろ取りまとめていかなければならないかなと思いますがいかがでしょうか。

<委員>

東京書籍と光村図書に絞られてきたと思うのですが、各委員さんに調べていただいたこれを見ますと、どちらが有力なのかということが最終的に問題になってくると思います。

<委員>

説明を聞いていて気になったのは、この二つを比べてみると数字的にも光村図書の方が有利であるという言い方ですが、今までずっと東京書籍でやってきているわけです。国語の力が全国学力状況調査でもそんなに劣っているわけではないと思いますので、そういうところを踏まえていくと、教師の指導力とか教師がもっと深めるためにはという部分もわかりますが、子どもの視点で子どもにとってというところでやっていると東京書籍も捨てがたいのではないのかなという感じがして聞かせていただきました。

<会長>

ありがとうございます。みなさんのお手もとにこの調査報告書があると思いますが、一番左が東京書籍が一番右が光村図書です。特に優れている点について書かれていますが、内容の深いところまでは比較はできませんでしたが、ポイント的に考えると東京書籍の方が優れているのかなと感じました。

<委員>

この調査報告書の表を見てポイントを比較してみました。例えば、「話す・聞く」での交流活動というのがあります。光村図書では「話す・聞く」での交流活動例が具体的に示されているとあるのですが、東京書籍では「話す・聞く」での交流活動例が具体的に示されたり、話し合いの視覚化などの工夫した交流活動が示されたりしているとあり、よりプラス面がでていいるなど感じまして、同じようにずっとみていくと東京書籍の方がポイントが高いのかなととらえました。バランスよく一つ一つの項目が構成され観点があるので、その観点をバランスよくみていくことが大事なのではないかと思います。どこか一つを取り上げてそこだけで比較するというのでは見方が偏ってしまうのかなと思います。全体的には東京書籍の方がプラスかなと思っています。

<会長>

ありがとうございました。それではそろそろ絞っていきたく思いますけれども、今いくつかご意見いただいた中で、光村図書の捨てがたい所もあるけれども全体のバランスそれからこの調査結果等を考えると東京書籍の方が優れているのかなと、この第4採択地区の子ども達にとってはいいのかなというご意見が多かったと思うのですが、みなさんから特にご異議ございますか。

<委員>

両方手に取って見させていただきました。教科書を作っている会社の歴史とかは全くわからないのですが、東京書籍の方がいいかなと直感的に思いました。

<会長>

使う立場でということですか。

<委員>

そうです。

<会長>

では他にご異議ございますか。

<委員>

光村図書の方は、自主学習にはいいのかもしれませんが、授業の教材としては教師のいろんな面がでてくるわけで東京書籍の方がいいのではないかと思います。また教材数が多いのいいということも言われましたが、果たして多ければいいのかとも思います。一年

間でやりこなすということになると、教材が多いと浅く広く、あとは自主学習でお家でということになってしまうこともあるので、教材の数もある程度少なくして、それを授業の中で深くやる方がいいのかなと思います。私も東京書籍の方がいいと思います。

<会長>

ありがとうございます。それでは、特にご異議がなければ東京書籍の教科書を採択するというところでよろしいでしょうか。

異議なし

<会長>

異議がないということですので決定させていただきます。ありがとうございます。

採択理由書（案）配付

<会長>

先ほど部長さんからお話しいただいたことが盛り込まれていますが、これに加えて委員の皆様から貴重なご意見を頂戴したので、付け加えることがあればそれまでできるとは思いますがいかがでしょうか。

<委員>

二番目の「話す・聞く」での交流活動のところ、表現力を伸ばす視点が入っているというような文言を入れてもらえると東京書籍の特色がわかると思います。

<会長>

そうですね。

<委員>

文章の方はおまかせします。

<会長>

先ほどの話し合いの中でも、表現力を高めるためという配慮がなされている教科書ではないかというご意見があったものですから、その辺を付け加えさせていただくということよろしいでしょうか。

他に異議がなければ、採択理由書を作成させていただきますがよろしいでしょうか。

異議なし

<会長>

そのようにさせていただきます。ありがとうございました。

国語調査部長入室

<会長>

続きまして書写の方お願いいたします。

<国語調査部長>

5社の教科書について調査し、その結果をまとめたものが、お手元の資料です。その資料をもとに各教科書の特色について、特に、「学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について」と「内容の程度及び取り扱いについて」を基本に、生徒の視点に立って文字を正しく整えて書くと教材等の工夫を中心に簡単にご説明させていただきます。

まず、東京書籍につきまして、カラー2色の淡墨図を使い、書くときのポイントとし行書の二つのパターンから基礎・基本が習得できるよう配慮されています。また、自分の文字の課題を解決するため3段階の手引きを設けています。本のサイズがB5の変形に特色があります。

次に、学校図書につきましては、カラー2色淡墨図や補助線、筆順などを視覚的に示して、基礎・基本が押さえられるよう配慮されています。毛筆で練習した後、硬筆で練習したり、自分の課題を見つけ学習内容の定着が押さえられたりするよう配慮されています。

次に、三省堂につきましては、毛筆の基本をカラー2色の淡墨図連続写真で視覚的に提示し、基礎・基本が押さえられるよう配慮されております。毛筆で書いて確かめよう、実際に書いて確かめることで基礎・基本が習得できるような配慮がされています。

次に、教育出版につきましては、点や筆使いをカラー2色淡墨図連続写真で視覚的に示し、筆圧の解説をしながら基礎・基本が押さえられるよう配慮されています。

最後に光村図書につきましては、カラー2色の淡墨図や連続写真、筆圧を示す擬音語により、基礎・基本が押さえられるよう配慮されています。基礎・基本を理解した後、実際に毛筆で確かめ、最後に学習したことを生かして硬筆で書くという流れで学習内容の定着に配慮しています。

続きまして、調査していく中での2社「東京書籍」と「光村図書」の書写について説明させていただきます。

まず、学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択についてというところで、生徒が文字を正しく整えて早く書く事ができるようにするための、基礎的・基

本的な内容についてどのように配慮されているかということについて、東京書籍では30ページに「書くときのポイント」として、行書の「動きのパターン」と「形の特長」をインデックスにして毛筆教材の近くに示し、文字を書いているときにも確認できるように工夫されています。

光村図書では、6ページの巻頭に小学校での学習内容をまとめた「基礎編」を設け、小学校からの円滑な接続を図るとともに 基礎・基本を活用の中で定着できるよう配慮されています。

次に、文字感覚の育成や文字を自ら進んで工夫して丁寧に書く意識や態度を育てるようになるためについて、どのように配慮がされているかということについて、東京書籍では、書写で学習したことが、他の教科や日々の生活の中でどのように生きているのか、学習活動や日常生活の題材が64ページに具体的に示され、丁寧に書く意識や態度が育成できるよう配慮されています。

光村図書では、全体的に毛筆で習得した基礎・基本を日常生活に生かせるよう、毛筆学習の後には必ず硬筆のなぞり書きや書き込みの欄を設けるなど硬筆と毛筆の関連を図り、丁寧に書く意識や態度を育成できるよう配慮されています。

次に基礎・基本の定着の工夫についてですが、生徒の発達段階に即した教材等について、どのような工夫が見られるか。

東京書籍では、12ページの「しょしゃのつぼ」でカラー2色の淡墨図を使い、毛筆の筆使いを視覚的に分かりやすく示し、筆順や字形の仕組みを確かめるなど、基礎・基本をおさえられるよう工夫が見られます。

光村図書では、10ページ淡墨図、連続写真、筆圧を示す数字やリズムを表す擬音語で筆使いを示し、点画のつながりや字形をつかむための補助線やキャラクター（p22）によるアドバイスで、基礎・基本をおさえられるよう工夫されています。

次に関心・意欲を高め、主体的な学習を促すための工夫についてです。生徒に、日常の文字を「正しく整えて」書くことができるように関心を持たせ、主体的な学習を促すためにどのような工夫が見られるかということでは、東京書籍では、26ページ自分の文字の課題を解決するために、82ページ「調べよう・広げよう・確かめよう」の3段階の手引きを設け、主体的な学習を促す工夫が見られます。

光村図書では、全般的に基礎・基本を理解したあと実際に毛筆で確かめ、最後に学習したことを生かして硬筆で書くという一貫した流れになっており、自分で学習内容の定着を確認できる工夫が見られます。

個に応じた指導のための工夫についてです。生徒の経験や興味関心などに応じた内容等の取り扱いについてどのような工夫が見られるかについてですが、東京書籍では、71ページで3学年の「生活を豊かにする文字」などで、チャートを取り入れた選択学習が設定されています。

光村図書では、56ページの3学年で、これまでの学習を生かした作品づくりができる

ような工夫や各学年の「コラム」において、古典や文字文などに触れながら学習することができます。

その他の特色としては、東京書籍では、B5の横を2cmほど伸ばす形にすることで、作品手本の余白を確保しつつ「書くときのポイント」を帯状に示しています。

光村図書では、灰色表記でなぞり書きができるようになっている箇所が数多く設けられています。

基礎・基本を定着するために毛筆で書いた後に学校生活で多く活用できる硬筆で書くという一貫した学習の流れがぶれないことが、文字を正しく書くという技能の向上につながるのではないかと思います。また、小学校から継続するなぞり書きは親しみがあるのではないかと思います。

以上です。

<会長>

ありがとうございました。それではご質問等ありましたらよろしく願いいたします。

特にありませんか。

部長さんから何かありますか。

それでは国語の教科書と書写につきまして大変お世話になりました。ありがとうございました。

国語調査部長退室

<会長>

それでは、審議をしていきたいと思いますが、皆様の中からご意見等ございましたらお願いいたします。

先ほど部長さんからもありましたように、小学校では光村図書を使っていました。中学校も現在は光村図書を使っています。以前にも国語の教科書と一緒にの方がいいのではないかという議論がなされたように記憶していますが、使いやすさとかいろいろなことからこのように決まっていたようです。そういったことも踏まえながら、新たな視点も入れて審議していただきたいと思います。

<委員>

国語と書写の教科書は会社が違っても当然いいと思います。この説明文を見ると基礎・基本の定着のための工夫は光村図書の方がいいと、教材の解説については詳しく調べられるということで、私としては光村図書でいいのではないかと思います。

<会長>

このようなご意見をいただきましたけれどもいかがですか。それでは、時間もあるようですので、教科書を比べてご覧になってください。

<委員>

先ほど部長さんが「なぞり」を強調されていましたが、あれは学習指導要領からみても、小学生では字形を整える基礎の「なぞり書き」は重要ですが、中学生になると整った字を書くということにウエイトがいくので、東京書籍の25ページに形の崩れた例が載っていますが、こういうものを扱うと整った字を書くという視点は、例示をしていいのではないかと思います。

<委員>

紙質はどうですか。

<会長>

条幅に書く物についてはどちらも同じように折り込みでありますね。盛り込まれている内容等についても、先ほどご説明があったように、それぞれ特色があるようですので、視野に入れながらご意見を伺いたいと思います。

<委員>

筆順についてこだわっているのは東京書籍ですね。

<会長>

筆順については、書き順はもちろん大事ですが特に筆の運び方とかどのように手首を使って運んでいくかというのがうまく図示されていたものがありました。そのあたりもそれぞれ長がでていますね。それから今の子ども達は、鉛筆の持ち方ができていません。鉛筆の持ち方と筆の持ち方は多少は違いますが、様々な角度から多面的に配慮されているものがあります。これも一つの比較になるかと思います。

例えば東京書籍ですと、4ページ5ページが鉛筆の持ち方・姿勢の基本です。光村図書も4ページ5ページにあります。それから東京書籍は、悪い例がイラストで載っています。後片付けについても光村図書は詳しく載っています。それぞれいろいろなところに配慮されています。

時間も迫ってまいりましたので、再度ご意見を伺って決めていきいと思います。いかがだったでしょうか。

<委員>

この地区だけが、国語と書写の教科書が違いますね。他の地区は、国語と書写の教科書は同じ会社のもを使っている。同じ会社のもでなければならないということはないわけですが、あえて変える程の違いがあるのかなということが一つと、見た目は東京書籍の方がいいと思います。見た目というのは、文字の解説とか書き順それから折れとかはねの強調するところのマークのことです。

<委員>

中学生らしいのは東京書籍の方かなと思います。見た目がとてもカラフルできれいだということ、そこは目に入る一番の場所で、もう一つは、大事なものは「なぞる」ではないと思います。マスの中に模倣して書くということでもいいと思うので、国語と同じ東京書籍がいいと思います。

<委員>

半紙大、半紙と同じこのサイズがいいと思いました。

<会長>

書写の学習で一番基本になるのは、筆の持ち方とか姿勢といったことであり、また今の子ども達の実態からみると、小学校から指導をしていますが非常に身につかない部分があります。中学校になると、思春期といったこともありわざと姿勢を崩したりすることもあります。各中学校へ行ってごらんになるとわかると思うのですが、東京書籍の5ページに書かれている姿勢で授業を受けている子ども達は多数います。そのようなことも踏まえて、悪い例というものにも目を向けて見ることも必要なかと思うので、個人的には子ども達にこれを見せたいなとも思います。そして、筆の持ち方についても5ページ、6ページと2ページにわたってあると、基礎・基本については中学校でも確認して進めていきたいなと感じます。この件に関しては、東京書籍のここは捨てがたいかなと思っています。

<会長>

それでは今伺ったご意見としては、東京書籍で特に問題がないということであれば国語と同じ東京書籍でいいのではないかというご意見がありました。別な意見として、違ってもいいのであればことさら変えることもないのではないかという意見もありました。それに加えて内容的なこと、大きさがこの大きさであるのには意義が大きいのではないかという意見もありました。

ということで、今、どちらかという東京書籍というご意見が多いように感じますが、他の委員さん方はいかがですか。

<委員>

お手本が半紙と同じサイズというのは魅力かなと思います。

<会長>

それでは、ご意見が多いのは東京書籍の教科書と捉えていますが、これでご異議ありませんでしょうか。

意義なし

<会長>

よろしいですか。それでは東京書籍の教科書ということで決定します。

採択理由書（案）配付

<会長>

理由書についてお目通しいただきます。

<委員>

一番下のところがわかりにくい表現かなと思います。調査報告書の表と同じで報告書の表もわかりにくかったのですが、「B5の横を2センチほど伸ばす形にすることで、作品手本の余白を確保しつつ『書くときのポイント』を帯状に示している」とありますが、読んだ人がわからないかなと思います。

<会長>

これについては、言ってることはやはり大きさを工夫しているということですよ。サイズを半紙大にしているという。

<委員>

そうですね。そのような言葉が入るといいですね。机のスペースは狭いですよね。縦にして置いて手本にできるというのは利点かなと感じたものですから、そこをちょっと直していただけたらと思います。

<会長>

はい、わかりました。そこを直すということでよろしいですか。それでは一番下のところを、委員さんがおっしゃったようにもっとわかりやすく直します。

そのほかございませんでしたら、この理由書でよろしいでしょうか。

それでは東京書籍の教科書，そして採択理由書については一番下の文言をもっとわかりやすく表現し直すということで決めさせていただきます。

国語教科用図書回収

社会教科用図書配付

社会調査部長入室

<会長>

まず地理についてお願いします。進め方としては，地理，歴史，公民，地図と4点ありますが，それぞれ区切りますか，どのようにしますか。効率よく進めたいと思いますが，全部ご説明いただいてその後で審議ということによろしいですか。それではご説明よろしくお願いたします。

<社会調査部長>

社会科部会での調査内容について報告させていただきます。

まず始めに，地理的分野では4社の教科書について調査をし，その結果をまとめたものがお手もとにある資料です。

1社目の東京書籍ですが，学習の導入時に課題把握のために使用する事象提示資料が吟味されており，課題意識がしっかりもてるような配慮がなされている。また，学習課題が多面的・多角的に追究できるよう多種多様な資料が掲載されていることが特長です。

2社目の教育出版ですが，課題解決学習が主体的に進められるような構成になっている。側注に「読み解こう」「地域調査の手引き」など，追究，調査活動をサポートする内容を掲載していることが特長です。

3社目の帝国書院ですが，単元の冒頭で，見開きの2ページを割いて，各地域で学習するテーマとともに，地図や特色的な写真等を掲載し，地域的特色が大観できるよう配慮した構成になっている。見通しがもて，生徒の学習意欲の喚起への配慮が見られることが特長となっております。

4社目の日本文教出版ですが，日本の地域的特色を学習する内容にもっとも多くページを割いていることが特長の一つです。側注に重要語句を掲載し，基礎的・基本的な知識の習得にも配慮されています。

4社の中で，特に話題になった2社の教科書について，さらに説明をさせていただきます。

まず1社目は東京書籍です。お手元の教科書の21ページをご覧ください。小

学校との学びの接続を考えて、小学校で学習した内容が単元の冒頭に掲載されております。続いて49ページをご覧ください。いたるところに「地理スキルアップ」「調査の達人」のコーナーが掲載されており、統計資料、雨温図や主題図等の読み取り方及び調査活動の調べ方等、生徒が基礎的・基本的な技能の習得を図るための工夫が見られます。基礎的・基本的な技能の習得については、今回の平成20年の学習指導要領の改定の大きな目玉の一つになっております。続いて39ページをご覧ください。1単位時間の学習が見開き2ページになって構成されております。見開きの左ページの上に事象提示のための写真や資料が掲載されており、課題把握をさせるために有効な導入資料となっていることが東京書籍の特長と考えております。また「地理にアクセス」のコーナーがほとんどのページにあり、調査した内容を補説したり発展的な学習へと導いたりする資料となっていること、それから学習の振り返りが一番もとに載っております。学習の振り返りでは、学習内容の理解深化や言語活動の充実を図った構成になっています。以上により、生徒が興味・関心をもち、意欲的に課題解決的な学習に取り組めるよう工夫がされていると思います。また、日本の諸地域の学習では、動態地誌的な学習の充実を図れるようにするため、テーマの設定及び多面的・多角的な考察や調査活動に必要な豊富な資料が掲載されている点に工夫が見られます。179ページからです。学習指導要領で自然環境や人口の移動等内容をいくつかまとめたものがあって、教科書会社ごとにこの地方では何のテーマで学習するのかということを求めています。羅列的な学習であったのですが、その反省のもとに一つテーマを与えてそこから派生して地域的特色を理解しながら子ども達をいろいろなイメージのもと学習させていくというのが、今回の学習指導要領の大きな改定の柱になっております。そのことについてはかなりの部分で吟味された構成になっております。全体的に見て写真が大きく、グラフ等も背景色を統一しており、見やすい構成になっております。AB判を無駄なく構成しているのが東京書籍の教科書の特長かなと思っております。

続いて帝国書院ですが、211ページをご覧ください。日本の地域的特色を学習するページです。東京書籍は右側のページだけでその地方を大観できる写真を掲載していますが、帝国書院は見開き2ページを使った構成になっているのが特色になっています。これによって生徒は自然、文化、産業等を多面的にみて、地理的認識を深める材料になってくると思います。214ページの右上のところで、マイクのマークがついていますが、地域の人たちのコメントが載せられています。このようなことも地域的な特色を理解する上での配慮になっていると思います。217ページを見ていただくと、側注に重要語句であったり難解用語等を補説する「解説」がどのページにも掲載されたりしております。また、生徒の関心意欲の高まりに応じ、発展的な学習に取り組めるよう「発展」のコーナーが適宜掲載されているのも特長の一つであると思います。227ページをご覧ください。羅針盤のマークをデザイン化したもので防災と書いてあるものがあります。このコラムで共生・環境・防災に分けて、内容についてコラムとして載せるような構成になっております。また、1単位時間の学習を見開き2ページで構成しております。資料も大き

く掲載し、課題把握ができるようになっているのが特長です。東京書籍との大きな相違点というのは、振り返りの学習で、帝国書院の方は「確認しよう」「説明しよう」で、基礎的・基本的な知識の部分を振り返って確認し、1単位時間の学習をもう一度自分のことばでまとめ直すという構成になっているというところです。15ページをご覧になってください。写真の読み取り方ということで、今回の学習指導要領の中で基礎的・基本的な知識、技能の習得で、地理の場合には読図を充実する内容になっております。技能を磨くということでスキルアップのページを適宜さいて掲載しているところが特長になっています。

以上で、地理的分野の報告を終了させていただきます。

続きまして、歴史的分野では8社の教科書について調査をさせていただきました。

1社目の東京書籍ですが、単元のまとめと次単元の扉を見開きとして、年表をつなげることで歴史の流れがわかるような構成になっています。今回の学習指導要領の改定の大きな柱の一つの中に、歴史的分野については歴史の大きな流れを大観させるというのが学習する一つの要素になっております。その部分に配慮した構成になっています。62ページ、63ページをご覧ください。前の章の振り返りを左のページ、次の単元で学習する内容を右のページという構成になっております。また、次の64ページ、65ページには、見開きで小学校の学習内容が入れてあります。小学校の学習は人物とか文化を断片的に学習するので歴史の流れを大観できていません。ここでは、小学校で学習した内容の歴史の流れがわかるように、大観できる構成になっているのが特長です。

2社目の教育出版ですが、50ページ、51ページをご覧ください。章末ごとに時代の変化や特色に着目し、自分の言葉で時代を説明する活動を設定しています。活動が円滑に進むよう図や写真などを掲載する配慮がされています。

3社目の清水書院ですが、従来 of B判を用いております。章末での時代の特色をまとめる活動でYチャートという手法を用いて、グループで時代の特色を表す写真や資料を選択し、協議しながらキャッチコピーをつくるという活動に特色が見られます。学習指導要領には、時代の特色をまとめるという活動が入っております。一つの時代が終わるとYチャートというかたちで時代を振り返ってキャッチコピー作りをすることを章末の学習活動の中に位置付けているのが特長となっております。

4社目の帝国書院ですが、章ごとの冒頭に見開き2ページを割いて、学習する時代の様子をイラストで掲載し紹介している「タイムトラベル」が掲載されています。その時代を大観できるような、イラストを載せていることが帝国書院の特色になっております。小学校で学習した内容も年表中に表記されているとともに、その時代の歴史を大観でき、課題意識がもてるような工夫が見られるのも特長の一つです。

5社目の日本文教出版ですが、60ページ、61ページをご覧ください。単元ごとに「地図で見る世界の動き」と年表を見開きで掲載し、その時代の世界と日本の歴史の流れを対比しながら大観できるような工夫が見られます。また、年表を2段に分け、こ

れから学習する内容と小学校で学習した内容を対比して掲載し、時代を大観できるような工夫がなされております。

6社目の自由社は、B判になっております。「外の目から見た日本」「もっと知りたい」「人物クローズアップ」などのコラムが充実しています。120ページ、121ページをご覧ください。ちょうど戦国時代、秀吉の時代です。このコラムを通して、歴史に関心を持ち歴史上の人物を含めた歴史的な事象を深く理解できるとともに発展的に学習できるような配慮が見られます。

7社目の育鵬社です。14ページ、15ページをご覧ください。各章の導入で時代の特色を4ページを割き、鳥の目と虫の目との違った観点で時代をとらえ、時代を大観させるような配慮が見られます。歴史的な事象にポイントを当てて虫の目線でイラストを載せたり、また、「人物クローズアップ」「なでしこ日本史」などのコラムで歴史上の人物に焦点をあてたりした構成になっています。

8社目の学び舎です。この教科書だけA判を用いています。近現代に関する内容に多くのページを割いているのが大きな特長です。

続きまして、調査をしていく中で、話題になった3社の教科書について、さらに説明をさせていただきます。東京書籍、帝国書院、日本文教出版、この3社です。

1社目の東京書籍ですが、62ページから64ページをご覧ください。先ほども申しましたが小学校との接続を図った構成になっているということが特色の一つです。それから、小学校で学習した内容を時代の流れで掲載して子どもたちに時代の流れを大観させるような工夫がみられます。次に61ページをご覧ください。単元末での時代の特色をとらえる学習では、単元ごとにイメージマップ、比較表やプレゼンテーションソフトの活用等、多面的であり多角的なまとめ方で構成されており、生徒の表現力、思考力を培う上では非常に有効な構成になっていると思います。

学習指導要領の改定の大きな要点の第3に身近な地域の歴史を調べる活動がございすが、54ページにありますような「私たち歴史探検隊」がシリーズ化して掲載され、様々な角度から地域のことを学習できるようなものになっております。

76ページをご覧ください。見開き2ページで課題解決学習が展開できるような構成になっています。地理の教科書と同様に見開きの左上に写真や絵巻物等の史資料を掲載し、課題との関連性を重要視した資料の掲載になっているのが特色になっています。また、「歴史にアクセス」では、学習内容を補説したり発展的な学習へ導いたりするための補助資料としての配慮が見られます。

「歴史スキルアップ」「調査の達人」のコーナーが適宜掲載され、基礎的・基本的な知識・技能の習得にも配慮した構成になっています。

また、見開きのページの左もとに歴史のスケールが載っていて、どの時代を学習しているのかが視覚的にとらえやすいよう配慮がなされています。

2社目の帝国書院ですが、30ページをご覧ください。単元ごとにその時代の様

子をイラストで紹介する「タイムトラベル」が掲載されているのが特長の一つとなっております。次に48ページをご覧ください。時代の特色をまとめる活動を見開き2ページを使っております。穴埋めでまとめ、最後に時代の特色を自分の言葉でまとめる活動ですが、これが非常に平易にできています。49ページの右下をご覧ください。まず、書き出しが指示されています。さらにそのもとに例文が載っています。さらに丁寧なのは、47ページをご覧ください。平安時代の時代を振り返ってということで、6～7行で平安時代の特色をさらにまとめている。これだけあるとほとんどの子ども達が時代の特色をまとめられるかなと思います。ただかなりの部分で平易なので、中位から上位の子どもの学習に対しては懸念材料の一つとしてあるのかなと思います。7ページをご覧ください。身近な地域の調査活動では、巻頭の「身近な地域にひそむ歴史を探ろう」で、テーマの設定、調査方法、まとめ方について例示を示す構成になっています。

「トライアル歴史」「歴史を探ろう」「地域史」「人物コラム」「世界遺産」「国宝」などの表記や掲載があり、多面的に基礎的・基本的な知識・技能の習得のための配慮がされているのが一つの特色です。

また巻末の年表は、諸外国との関連について矢印を用いて表現し、交流のあり方が視覚的にとらえやすい工夫がされているのが帝国書院の特色です。

3社目の日本文教出版ですが、60ページ、61ページをご覧ください。単元ごとに「地図で見る世界の動き」と年表を見開きで掲載し、その時代の世界と日本の歴史の流れを対比しながら大観できるような構成になっております。また、年表を2段に分け、これから学習する内容を上の段、小学校で学習した内容を下の段という構成で、小学校との学習の接続にも配慮するという特色がみられます。

続いて56ページ、57ページをご覧ください。単元末での時代の特色をとらえる学習では、ほとんどの単元で年表での振り返りと比較分類表を使った学習内容のまとめ、時代の特色を自分の言葉でまとめるという構成になっています。

54ページ55ページをご覧ください。「でかけよう地域調べ」を単元ごとに掲載し、身近な地域の調査活動を多様な手段を使って紹介する構成をとり、生徒の表現力、思考力の育成に配慮がされています。

64ページ65ページをご覧ください。見開きで1単位時間の学習活動が課題解決的に展開できるような構成になっています。側注には、用語の解説や重要用語が掲載されています。最後のまとめ方は「確認」と「活用」という二段構えになっています。基礎的・基本的な知識の習得が図れているかを確認することと、言語活動の充実を図るために自分の言葉でまとめるというようになっていきます。見開き左側の縦軸に時代のスケールが載っています。大きくスケールが載っていて、「今この時代を学習している」ということが認識できるような構成になっております。また、巻末の人物及び事項等のほとんどにルビがふられているのが日本文教出版の特色になっております。随所に「歴史を掘り下げる」「先人に学ぶ」「〇〇史+α」などが掲載され、歴史への興味・関心の喚起と発展的な学習への

配慮がされているのが日本文教出版の特長となっております。

以上で、歴史理分野の報告を終了させていただきます。

続きまして、公民的分野では7社の教科書について調査をさせていただきました。

1社目の東京書籍ですが、毎時間の学習の導入資料で、課題把握がしっかりできるような配慮がされています。また、この教科書の特長の一つは、今回の学習指導要領の改定の一つで政治や経済や国際関係について対立と合意、また効率と公正に基づいての考えが教科書全体を貫いて掲載されています。

2社目の教育出版ですが、70ページ、71ページをご覧ください。章末等に「言葉で伝え合おう」「読んで深く考えよう」の掲載があり、表現力、思考力等を育成するために言語活動の充実に配慮した構成になっているのが特色です。

3社目の清水書院ですが、歴史と同じようにB判になっております。側注が充実しており、主体的な探究活動や基礎的・基本的な知識の習得に配慮された構成になっています。様々な用語の解説が載っております。

4社目の帝国書院ですが、政治や経済の学習に身近な題材をシリーズで取り上げ、学習意欲の喚起と学習内容の理解深化に配慮した構成になっています。例えば61ページをご覧ください。国会議員が語る政治の現場がシリーズで載っております。そして121ページからは経済の学習ですが、パン屋さんになって経済の学習をするのがシリーズ化されています。このように、生徒にとって身近な話題を取り上げる構成になっているのが特色の一つとなっております。

5社目の自由社ですが、12ページ、13ページをご覧ください。「もっと知りたい」というコラムで学習内容と関連した社会的事象を掲載することで、学習意欲を喚起したり発展的な学習に取り組ませたりするような配慮が見られます。

6社目の日本文教出版ですが、3ページをご覧ください。現代社会ナビ、各章の学習、チャレンジ公民、ズームインで多面的・多角的に社会的事象を考察させ、学習内容の理解が深まるよう配慮された構成になっています。

7社目の育鵬社では、15ページをご覧ください。「考えよう」「理解を深めよう」のコーナーで、学習内容の理解深化を図るとともに、発展的な課題に取り組めるような配慮がされています。また、学習に役立つウェブサイトでICTを活用した主体的な学習が進められるような配慮が見られるのが育鵬社の特色です。

続きまして、調査をしていく中で話題になった、東京書籍と帝国書院の2社の教科書について、さらに説明をさせていただきます。

1社目の東京書籍ですが、16ページをご覧ください。地歴公民と一貫して流れているのは、課題と事象提示に使う資料が非常に吟味されているのが東京書籍の教科書の特長の一つとなっております。また学習を振り返るコーナーでは、学習した用語を用いて、学習課題についてまとめる活動を掲載しています。それにより、基礎的・基本的な知識の

習得と言語活動の充実が図られるよう配慮がなされています。

24ページから27ページをご覧ください。対立と合意，効率と公正の掲載が教科書全体を貫いて掲載されているため，政治，経済，国際関係に関する諸事情をとらえ，見方や考え方を深めることができるよう配慮された構成になっています。53ページをご覧ください。学習内容の理解深化と学習活動の個別化を図るために，生徒にとって身近で関心の高いテーマを「公民にチャレンジ」に取り上げている点に工夫が見られます。44ページをご覧ください。学習指導要領の内容「(3) 私たちと政治」に関する学習の理解深化を図るために，側注に日本国憲法の関連条文を掲載する配慮がなされています。憲法そのものを学習する活動ではありませんが，憲法をもとに政治活動や経済活動や人権を考え学習活動を展開しなければならないという場面で，その際に拠り所となる憲法を側注に掲載しているのが東京書籍の特長の一つになっているかと思えます。

領土問題に関しては，196，197ページの「公民にアクセス」のコラムに2ページを割いて，北方領土・尖閣諸島・竹島等の領土に関することを歴史的経緯，関係国との現状を詳細に掲載する構成になっています。

2社目の帝国書院ですが，104ページ，105ページをご覧ください。単元の冒頭に，見開き2ページを割いて「学習の前に」を掲載し，イラストや写真等を用いて学習意欲を喚起したり，学習の見通しをもたせたりできるような工夫がなされているということです。続いて108ページをご覧ください。「クローズアップ」のコーナーに写真や統計資料等を掲載し，生徒に課題意識をしっかりとらせるような工夫がなされております。

1単位時間の学習の振り返りを「確認しよう」「説明しよう」という二段に分けて振り返る構成になっているのが特色の一つです。

54ページをご覧ください。他分野との関連については，側注に「地理・歴史をふりかえる」のコーナーを設け，社会的事象等を分野がわかるように掲載されています。

198ページをご覧ください。社会科の学習のまとめとして，持続可能な社会についての検証を深める学習があります。そこが細かく載っております。

それから，先ほどお話ししましたように61ページ，121ページですが，政治や経済の学習において，身近な話題でシリーズ化して取り上げ，子ども達にとって学びやすい方法をとっているのが帝国書院の特色の一つです。また168ページ，169ページには領土に関するものを見開き2ページを使って掲載しております。

以上で，公民的分野の報告を終了させていただきます。

続きまして，地図は2社です。

1社目の東京書籍ですが，教科書に似ているので昔の地図帳とはちょっとイメージが違う感じを受けます。ページ数も非常に多いです。東京書籍の教科書と関連づけた写真や資料が掲載されており，課題解決のための探究活動を進める際の資料として活用できるよう

配慮がなされ、教科書と同じような流れで構成されています。

31ページをご覧ください。教師と生徒の6人が世界旅行をしようという設定でこの地図が作成されています。そのひとつひとつに地理的認識があり、旅行をしている教師や生徒が質問を投げかけ、それによって地図の見方や地理認識を深める構成になっているのが特色です。90ページをご覧ください。思考を深めさせるために、経年変化の地図や資料が掲載されているのが特色です。10年前はこのような地形であって現在はこんな地形になっているという比較ができます。例えば高速道路や橋の変化ということが載っていますが、教科書では中国四国地方でのテーマは人口の動きや物の動き、交流を学習するようになっています。それと接続を図った地図の掲載になっているのが特色になっています。それを多面的に載せてあります。

それから日本の領土については、巻末に日本の周辺という主題で、地図上での表記とともに、写真と歴史的経緯等が掲載されています。

一般図は土地の高低が細かく色分けされていたり、淡い色使いにより文字情報を見やすくしているのが東京書籍の地図の特色の一つになっております。

2社目の帝国書院ですが、25ページをご覧ください。一般図の後に、様々な主題図を掲載する構成になっています。また、鳥瞰図が随所に掲載されていて、子ども達が地形を三次元でとらえることができるというのが特色の一つになっております。

51ページをご覧ください。中段より下のところに鷹の頭が載っていて「地図を見る目」を表示し、読図のポイントを文章で示しています。また、95ページの「やってみよう」のコーナーでは、操作活動を通して作図の技能が習得できるよう配慮がされています。

また、東京書籍にはないのですが帝国書院の一般図には、必ず高低や土地利用を示すスケールが表示されています。高低は濃淡がはっきりした色使いになっているため、スケールでの確認とあわせて、地理的認識が深まるよう工夫されています。

日本の領土については78ページをご覧ください。地方ごとに掲載した一般図の中に写真や解説とともに掲載されています。また、北方領土については138ページをご覧ください。択捉島が右上に載っています。同縮尺の沖縄本島を併記して、択捉島と沖縄本島を比較して大きさを視覚的にとらえられるよう配慮がされているのが帝国書院の特色の一つになっています。

以上で、地理・歴史・公民・地図の報告を終了させていただきます。

<会長>

ありがとうございました。細かく、実際に教科書を見開きながらのご説明でしたが、質問等ありましたらお願いいたします。

それでは、この後の審議の中でまたおいでいただくことがあるかもしれませんので、待機してください。長い時間ありがとうございました。

社会調査部長退室

<会長>

まず地理の教科書についてご説明いただいた中で2社、東京書籍と帝国書院の教科書について特に念入りな比較検討がありました。この中で1社を決めていかなければならないかなと思いますが、まず委員さん方からご意見をいただきたいと思います。

<委員>

今は東京書籍ですか。

<会長>

はい。東京書籍を使っています。東京書籍の教科書に一貫していえることは、まず課題を把握するための写真等が載っていて、それに対して解決するための資料が載っているということで、課題解決力を育むということに重点が置かれているというような説明があったと思います。帝国書院は、見開き2ページで1時間の学習が構成されているということで、見通しが持てる構成になっているのが特色だということでした。

<委員>

課題解決学習とか資料活用能力という視点からいうと、東京書籍は子どもの目線で学びやすい使いやすい教科書だという印象を受けました。

<会長>

子ども達の視点で課題を把握し、自力解決を図れるような仕組みになっているようなご意見だったと思います。それから、最後のところには常に学習したことをまとめる「説明しよう」とか「三つの言葉を使ってまとめよう」など、自宅に帰ってからの学習やより発展的な学習に結びつくような発問が必ず書かれているというのも特色かなと思います。

<委員>

最後の振り返りの部分ですが、2社を比較すると、帝国書院は「確認しよう」「説明しよう」、東京書籍は1項目ですね。2項目は振り返りに大変かなと思います。無理に振り返りを二つ選ぶよりも、一つに絞ってまとめた方がわかりやすいのかなと思いました。先生も振り返りに二つはとれないかなと思いました。

<委員>

帝国書院は、丁寧なんですよ。どの子にも使いやすいということで、以前は帝国書院

の教科書は多くの地域で使われていたんです。東京書籍は、上位の子は上位の子で伸ばせるような活動の組み立てが組まれているということで、他地域でも東京書籍が多くなってきているのは、その辺りのこともあるのかなと思います。

<会長>

知識理解ということを中心にして長年学習が進められてきたその特色が今でも残っているということと、課題解決学習を中心にして意図的に子ども達が様々な課題を解決していく力を、一生涯にわたって生きる力を育てていくためのものとして考えているのが、東京書籍の教科書だというお話だったと思います。ちなみに、今使っているのは東京書籍です。小学校の教科書も東京書籍です。

<委員>

調査報告書に、各教科書の良さが書かれていますが、甲乙つけがたい点があります。ただ、子供達の視点でとらえた時に、小学生も中学生も東京書籍を使っているということで、その辺りの関連性はどうかのかなと思います。東京書籍の教科書を継続して使用するのもスムーズに進められる利点かなと思います。

<会長>

他にご意見はございますか。

<委員>

最後のまとめのところで、東京書籍は「三つの言葉で説明しなさい」とありますが、この三つはその時間のキーワードだと思うのですが、教員も子どもが本当に理解できたかどうか確認できるので、東京書籍のほうがよいのではないかと思います。

<会長>

今委員さん方からいただいた意見では、東京書籍の方がいいのではないかという意見が多かったように思いますが、いかがでしょうか。それでよろしいでしょうか。それでは東京書籍で決定したいと思います。

採択理由書（案）配布

<会長>

採択理由書（案）のご確認をお願いいたします。

先ほど各委員さんからだされたご意見等も盛り込まれているかと思いますが、これでよ

ろしいでしょうか。

異議なし

<会長>

ありがとうございました。よろしくお願ひいたします。

続きまして歴史です。たくさんの教科書の中から絞り込まれたものが、3社あります。東京書籍、帝国書院、日本文教出版です。この中から1社絞り込まなければならないのですが、ご意見等ありましたらお願ひいたします。

<委員>

東京書籍の教科書は、年表中で小学校の学習内容にも触れながら、学習の接続に配慮しているという流れがいいと思いました。また見開きのページで、課題があつてまとめて振り返りがありますが、そこにも年表がついていていいと思いました。年表については、縦についている教科書会社があつてそれがいいなと思ったのですが、3社の中から選ぶと東京書籍がいいと感じました。

帝国書院は絵図が載っていますが、これが心配です。私はこのような絵を見るのが大好きでまちがいきがしのように見るのです。例えば草履を履いている人がいますが、昔はこういうのを履いていたのかなとか、わらじを見てほんとにこういうものだったのかなとか、子どもがこれを見てイメージして当時はこうだったとなってしまうのが心配です。昔の絵は東京書籍にもはいつていますが、小さく載っています。

<会長>

今こういつたご意見がありました、これに対しての意見でもいいし、賛成のご意見でもよろしいのでお願ひします。

小学校の歴史では人物学習が中心になってきますので、その時代時代がどこなのかというのは、とらえにくい学習だったと思うのですが、それを中学校で体系化していくということで配慮されているのは東京書籍です。いつの時代のことなのかすべてのページで確認ができるということ、それから丁寧な資料がでているということ有効なのではないかというお話でした。

<委員>

地理は東京書籍になりましたが、地歴公民へのアクセスの覧があります。地理と歴史と同じ教科書会社の編集方針に沿ったとらえ方もいいのではないかと思いました。学習の学びのスタイルからいつと、共通のものを使つた方がいいのかなという印象を持ちました。

<会長>

先ほど絵についてのお話がありましたがいかがですか。小学校だとむしろ有効なのかなと思いますが、中学校では漠然としたものを解決していくのが中心の学習ですから、答えが出ているものを眺めて頭の中にインプットして、それから調べましょうというのは、学習としてどうなのかなと思います。

<委員>

今の子ども達は、歴史の時代のもを映画やテレビ等映像で見ます。そうすると、先ほど委員さんがおっしゃったように、ある程度考えが固定化されます。時代物の映画や映像は造られたものですから、中学生の教科書なのである程度忠実な資料から読み取るという意味では、絵はなくてもいいのかなと思います。

<会長>

それでは、今のところのご意見にご異議はございませんか。

東京書籍の教科書の方がいいのではないかというご意見がだされています。ご異議もございませんのでこれで決定ということでよろしいでしょうか。

異議なし

採択理由書（案）配布

<会長>

今、委員さんからだされたこともすべて盛り込まれていると思いますので、これでお願いしたいと思います。

それでは続いて公民にはいります。公民につきましては、東京書籍と帝国書院の2社が推薦のあったものです。ご意見をお伺いいたします。

<会長>

先ほどの説明の中で特に力説されていたのは、帝国書院の方は学習意欲の喚起、学習内容の理解深化に配慮した構成になっているということだったと思います。政治とか経済の学習題材を身近なところから学習に結びつけているという特色があるということでした。東京書籍の方は、これは東京書籍のすべての教科書に貫かれている理念なのだと思いますが、課題把握がしっかりできるような配慮がされているということ、効率・公正というこ

とで教科書が構成されているのではないかということをお話になったと思います。

ページを開いて一番最初のところに写真が載っていますが、この写真も2社を比べると大きな特徴的な違いがありますね。東京書籍は「持続可能な社会を目指して」というのがテーマになっています。帝国書院は「世界で活躍する日本人」というのがテーマになっています。

いかがですか。ご意見をいただきたいと思います。

<委員>

全部を比較してどうかということではありませんが、例えばグローバル化と日本の位置づけについての記述がありますが、これは実業に携わっている感覚からいうと、帝国書院は触れている範囲が広いと感じます。この部分だけがすべてではないとは思いますが、ここだけを見ると帝国書院の方がいいのかなと思います。

<会長>

このようなご意見がありましたがいかがですか。

<委員>

なかなか難しく一長一短があると思いますが、課題を把握させる、子ども達が主体的に学習をするということでは、東京書籍の左上に課題をとらえやすい資料・写真が載っていてとらえやすいというような学習の流れでいうと、地理・歴史が東京書籍できたので公民も同じ会社というとらえかたもできるのではないかと思います。

<会長>

今、帝国書院、東京書籍、それぞれの教科書の良さについてご意見がでましたが、いかがでしょうか。ご意見がでない中で、どちらかに判断していかなければならないとなると、皆さんお一人おひとりの考えということもあるので、挙手によってご意見を伺うということもあるとは思いますがいかがでしょうか。もう少しお時間があつた方がいいですか。

歴史と地理は東京書籍ということで、学習の進め方が課題解決的な力を高めていくために、1時間のさわりのところで今日学習することはどういうことで何のために必要かということが認識できるようになっていて、それをどういう手立てで解決していけばいいかというヒントがたくさん載せられているということでは、学習の進め方に一貫性があると思います。学習指導要領の中で特につけたい力としては、子ども達が自ら考え自ら学ぶということで考えれば、課題解決力を高めるということは一番大きな課題なのかなといわれているところです。その辺を勘案して決めていきたいと思います。

<委員>

地歴公民へのアクセスということを考えれば、同じ教科書会社がいいのかなと思います。

<会長>

というご意見がありました、皆さんはいかがでしょう。

それでは、意見として皆さんがどのようなお考えを持ってらっしゃるのか把握できないので、申し訳ありませんが挙手していただいてよろしいですか。

それでは、意見多数ということで、東京書籍の教科書でよろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、一致ということで東京書籍になります。

採択理由書（案）配布

<会長>

よろしいですか。

異議なし

<会長>

それではこれで決定ということになります。

最後に地図帳のほうをお願いします。地図はもともと東京書籍と帝国書院の2社です。

ご意見いかがでしょうか。

<委員>

小学校は帝国書院ですか。

<委員>

色などもこれで慣れているから、同じものがいいと思います。

<会長>

小学校は帝国書院ですね。慣れ親しんできたので同じ方がいいのかなというご意見がありました、いかがですか。

昨年、小学校の地図の決定については議論があつて、長い時間かけて審議したのですが、結果としては帝国書院です。新たな視点で、小学校で慣れ親しんだものから離れてという考え方ももちろんあると思いますので、一概には言えないと思いますけどいかがですか。

<委員>

地理とか歴史の教科書と地図の関連は、教科書会社が違っても特に問題はないでしょうか。

<委員>

東京書籍の108ページ，帝国書院の116ページ，同じところを扱っているわけですが，帝国書院の方が見やすいですね。

<会長>

皆さんいかがですか。

<委員>

そうですね。見やすいですね。

<会長>

昨年も，見やすさという点で帝国書院になったと思います。

<委員>

地図帳としてとらえるのか，資料集としてとらえるのか。

<委員>

東京書籍は他の教科書でも印刷等がきれいなのですが，地図は帝国書院の方がきれいです。

<会長>

では帝国書院ということで異論がなければよろしいですか。

異議なし

採択理由書（案）配布

<会長>

この内容でよろしいでしょうか。

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それではこれをお願いします。

以上で社会が終わりましたが、地理・歴史・公民の教科書は東京書籍，地図は帝国書院のものを採択するというので決定いたしました。ありがとうございました。

ここで昼食休憩をはさみまして、数学については午後ということでもよろしいでしょうか。

社会教科用図書回収

昼食休憩

数学教科用図書配付

数学調査部長入室

<会長>

それでは、午後の部を始めたいと思います。

数学の教科書について調査の結果をご説明いただきたいと思います。

<数学調査部長>

数学部会での調査内容について、ご報告させていただきます。

数学部会では、7社の教科書について調査をし、その結果をまとめたものがお手元の資料です。その資料をもとに、各教科書の特長について簡単にご報告させていただきます。

まず1社目は東京書籍です。単元の導入は、見開き2ページが使われ、身近な問題を取り上げたり、写真やイラストを多く用いたりして、意欲を高める工夫がされています。

2社目の大日本図書です。教科書見開き2ページで1時間になるように作成され、それぞれの時間の学習内容の把握が容易となるよう工夫されています。各節の始めでは、既習内容の復習も兼ね、学習を始める手がかりとなる問題が示され、基礎的な概念や原理・法則についての理解を深めることができるよう配慮されています。

3社目は学校図書です。こちらは発展的な内容を学習できるよう各章末に「深めよう」、今後の学習を示唆するために第3学年に「高校へのかけ橋」が掲載されています。

4社目は教育出版です。節毎に「基本のたしかめ」や穴埋めなどを用いた章末の「学習のまとめ」により、基礎基本の定着が図られるよう工夫されています。

5社目は啓林館です。章の導入では、2ページに渡ってイラストや写真を用い、身近な問題を取り上げ、意欲的に取り組める工夫がされています。自分自身で考える場面「自分のことばでつたえよう」「自分の考えをまとめよう」「みんなで話し合ってみよう」を示し、基礎的な概念や原理・法則についての理解が深まる学習ができるよう配慮されています。

6社目は数研出版です。表現の育成を考慮し、学習課題一つ一つをわかりやすい言葉で明示しています。キャラクターが色分けされていて、その役割も区別されています。

7社目は日本文教出版です。各章の直前に「学ぶ前に」、本文中に参照ページや別解を示したりすることで、数学的な表現や処理の仕方を習得できるよう配慮されています。また、「くり返し練習」は補充問題の掲載ページを示し、振り返りながら学習できるように工夫されています。

以上7社について簡単にお話しましたが、どの教科書会社も自分の考えをまとめたり話し合ったりする課題提示が非常に多いです。また、ノートの使い方やレポートのまとめ方などにより表現力を高めようとするページが設けられている、授業に活用する上で充実していると考えられます。また、文字サイズは第1学年については小学校との関連を図った配慮がされており、文字や例題の背景については、ユニバーサルデザインを配慮した色使いがされています。各社とも、キャラクターを用いて子どもの興味関心を引くことで定着を図る工夫がされています。

続きまして、調査結果から、話題となった2社の教科書について、更に説明をさせていただきます。

まず東京書籍です。各章の導入では見開き2ページが使われ、身近な問題を取り上げたり、写真やイラストを多く用いたりして、意欲を高める工夫がされています。章・単元の学習内容をとらえるために、単元としての学習課題の把握、数学的思考の場、数学的活動の場を設け、単元全体の学習のねらいと数学的思考のよさが示されています。例えば第1学年の82ページをご覧ください。1次方程式ですが「キャップは何個あるのかな」「いちいち数えるのはたいへんだな」など中学生のキャラクターを活用し興味を引き、数学的思考の活用に導くとともに、できる・わかることのよさを高めています。各節の導入では、数学的活用を設定し数学的楽しさが味わえる設定となっています。

1時間1時間の学習内容は、例題、問いに加え、補充問題「もっと練習」や基礎基本の定着のための「まちがい例」をページの右側に位置させ、自主的学習意欲を高める工夫をしています。重要な例題の解答例はノートに問題を解く形で示す工夫があります。学習活動の中では、概念の理解を深めるために、中学生のキャラクターを登場させ、考え方の一部分を例示し、その後を考え表現させることで表現力を高めるように配慮されています。

また、東京書籍は一つだけ他の教科書会社と違うところがあります。第3学年の「素因数分解」が他の教科書会社は「因数分解」の中にはいっていますが、東京書籍は「平方根」で取りあげています。46ページです。学習内容の配列については、工夫がみられると思います。

続いて大日本図書についてです。7社の中で最もページ数が多くなっております。紙面の構成としては、1時間の内容を見開き2ページで表示しているのが特長です。学習課題、例題、適応練習問題が配列され、見通しがもてるよう工夫されています。適応練習問題は、問、プラスワン、さらに「練習」を各節毎にA、B2種類設けています。基礎基本の定着

のために、例がわかりやすく示されている、基本問題は戻るページや問題が示されている、など、数学が苦手な生徒への配慮がなされています。補充問題のプラスワンや適応練習問題の後に設けられている「深めよう・調べよう」は進んでいる生徒への配慮がされて、主体的な学習を促しています。また、1つの問題について多様な考えを説明する場面が設定され、数学的活動が充実し楽しさが味わえるように工夫されています。例えば、3年生の144ページをご覧ください。三角形の証明の部分では、例題の中で、仮定と結論を明確にした上での証明、また150ページをご覧くださいと、図形のとらえ方などが、わかりやすく示されていることがわかると思います。個に応じた指導のための工夫としては、既習事項を確認する補説を例題の脇に示したり、考えを深める問題を取り入れたりしています。補充問題や確認問題が豊富に用意されており、課題解決学習に最も紙面を割いているのが大日本図書です。以上で、報告を終了させていただきます。

<会長>

皆さまからご質問等ありましたらお願いいたします。

<委員>

大日本図書の編集の方針として、見開き2ページで1時間、さらにその中で必ず練習問題で定着させる。東京書籍のほうはそうにはなっていないように思います。

<会長>

調査の結果はいかがですか。

<数学調査部長>

一番特長としてとらえられたところでは、東京書籍の方は章の扉の部分でのそういったものはありますが、ページを追っていくごとにすべてが見開きのものとは限りません。大日本図書の方は章の扉の方は1ページを使って軽く触れていますが、授業一つ一つに関しては見開きで進められています。

<会長>

そのほかにご質問はございませんか。

なければ調査部長さんにはここで退席させていただきます。短い期間の中で真摯に取り組んでいただき、詳しい調査結果をいただきまして、ありがとうございました。

数学調査部長退室

<会長>

話し合いをしていきたいと思いますが、ご意見がありましたらお願いいたします。特に2社について詳しくご説明いただきました。お願いいたします。

<委員>

見開きで授業に合わせた構成になっているという、それから練習問題がきちんと配置されている、やり方について丁寧な説明があるということで、今までもそれでやってきて力がついてきているので、大日本図書でいいのかなと思います。

<会長>

その他にありますか。

<委員>

調査報告書の2段目のところで、大日本図書は実験・実測をもとに推測する活動が多く設定されているというところですが、そのようなことをもとに数理的に考察する活動は大事だと思うし、そのような能力を高めることが必要だと思いますので、この点がいいかなと思いました。

<会長>

大日本図書の優れている部分として2点ほど挙げられていますが、数学というのは一番個人差の大きな開きがでてくる教科だと思います。よく指導主事が話しているのは、授業を見に行ったら一番の課題は、1時間で終わらない盛りだくさんの内容で、定着までいかないことが多いという話をしております。1時間で学習する分量は限られたもので、それをきちんと繰り返し繰り返し行うことで力がつくのだろうということで、見開きの中に個に応じた配慮がなされ、そして課題解決的な学習が進められるという点で考えていけば、非常に使いやすい教科書なのかなと思っております。

皆さんからご意見いかがですか。

その他にはございませんでしょうか。

それでは、東京書籍と大日本図書と2つについてお考えいただきましたけれども、皆さんのご意見では大日本図書の方がよろしいのではないかとご意見だと思いますが、意義はございませんか。

異議なし

採択理由書（案）配布

<会長>

いかがでしょうか。よろしいですか。

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書はこれをお願いいたします。

数学教科用図書回収

理科教科用図書配付

理科調査部長入室

<会長>

理科の審議を始めたいと思います。

まず、部長さんのほうからご説明をお願いいたします。

<理科調査部長>

理科は、東京書籍の「新しい科学」、大日本図書の「新版理科の世界」、学校図書の「中学校科学」、教育出版の「自然の探究」、啓林館の「未来へひろがるサイエンス」を、詳細に渡って比較、検討をいたしました。

東京書籍は、写真やイラストがきれいで、教科書の表記や表現、解説の仕方等に工夫が感じられました。

大日本図書は、現在使われている教科書であります。内容やその扱い方に新しい表現や記事があり、工夫が感じられました。

学校図書は、写真やイラスト等に工夫が見られ生徒の興味関心が高まるような工夫がなされていました。

教育出版は、キャラクターを用い親しみやすいつくりになっており学習意欲が高まるような工夫がみられます。

啓林館は、実験や観察の内容がていねいで良いと感じました。別冊のノートや文字を隠して暗記等に用いる青いシートなど、参考書や問題集的な使い方もできます。

各社とも、それぞれに工夫を凝らし、特色のある内容となっており、一長一短がありました。総合的に判断し、特に評価の高かった東京書籍と大日本図書を中心に、調査報告書の項目観点に従ってご説明いたします。

第1項目「学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について」の第1の観点「自然の事物・現象にかかわろうとする態度を育てるために、どのように配

慮されているか」では、各社共、巻頭に学習の流れや教科書の使い方を示し、実験や観察に使う器具の使い方やノートの書き方、レポートの書き方等を掲載するなど工夫を凝らしていました。

大日本図書は、「くらしの中の理科」という欄で、理科が生活にいかに関用されているかを知らせ、生徒の学習意欲を喚起している点が優れていました。

第2の観点「目的意識をもって、観察実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるために、どのように配慮されているか」については、各社共、科学的な探究の手順に沿った流れで構成されておりました。

特に、単元の導入の部分では、東京書籍は、各章の始めと終わりに「before & after」という欄を設け、単元を貫く課題を意識させたり、課題追求の目的意識を章末まで持続できるよう配慮されていました。また、見開きで大きな美しい写真を掲載し、生徒の関心を引き付ける工夫が見られました。

大日本図書は、単元の導入は見開きで既習事項を取り上げると共に、単元の学習の流れを詳しく解説していました。

実験や観察の流れでは、東京書籍は、課題を「？」マークで示し、「予想しよう」「調べ方を考えよう」「実験・観察」「結果の見方」「考察のポイント」「私のレポート」という科学的な探求の構成になっていました。「予想しよう」という項目は、実験方法を考える場合が多く、なぜこの現象が起こるのかを考えさせる場面が少なかったと感じました。実験結果をどう読み取るかや、考察する時に着目すべき点、まとめ方などを示している点や、実験を濃い色枠でかこって見やすくした点は良かったと思います。

大日本図書は、課題を「？」マークで示し、「思い出そう」で小学校からの既習事項を示して見通しをもたせ、生徒の吹き出しで予想を考えさせ、「実験・観察」「結果の整理」「やってみよう」(発展)という、科学的な探究の構成になっていました。特に、小学校からの既習事項の振り返りや生活経験からの予想を吹き出しで示して考えを導こうとしている点はよいと思います。また、実験は色枠で囲まれ、実験の課題が分かりやすく提示されており、指導者や生徒にとってわかりやすい構成になっていました。

科学的な探究の基礎を培う部分については、東京書籍は、解説に新しい方法を取り入れたり、生徒の思考に沿ったていねいな説明をしたり、既習事項を確認したりして、科学的に探求する能力の基礎と態度を育てる工夫が見られました。

大日本図書は、「トピック」という欄では科学の話題を紹介し、興味関心を育む配慮がなされていました。

第3の観点「自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養うために、どのように配慮されているか」については、各社共、考えさせたり、話し合い活動をさせたりする工夫がみられました。

東京書籍は、解説に新しい方法を取り入れたり、生徒の思考に沿ったていねいな説明をしたり、既習事項を確認したりして、科学的に探求する能力の基礎と態度を育てる工夫が

見られました。また、「学びを活かして考えよう」という欄で科学的思考が深まる問題や説明活動を取り入れていたり、「学んだことをつなげよう」という欄で、書く活動を取り入れたりする等、『言語活動』を意識した、科学的な見方や考え方を養う工夫がなされていました。

大日本図書は、「話し合ってみよう」という欄があり、生徒の思考の流れに沿った『言語活動』ができるよう、生徒の会話形式での記述があり、科学的な見方や考え方を養う工夫がなされている点が工夫されていました。

第2の項目の「内容の程度及び取り扱いについて」の第1の観点「基礎基本の定着のための工夫」では、各社共巻頭に、理科の学習の流れや教科書の使い方を示していました。また、単元末や巻末に、重要事項のまとめや練習問題を掲載していました。啓林館のみが、別冊でノート兼問題集のような冊子を付けておりました。

東京書籍は、単元の途中に、例題や練習問題が載せられている箇所があったり、章末には簡単な問題が教科書の参照ページと共に掲載されていたり、単元末には「学習内容の整理」が2ページ、「確かめと応用」が3ページに渡って掲載されるなど、基礎基本の定着のための配慮がなされていました。

大日本図書は、巻頭で、理科の学習の進め方と教科書の使い方をていねいに解説していました。器具の使い方やノート・グラフの書き方等も詳しく説明し、科学的に探求するための基礎と態度を育てる工夫が感じられました。章末には5問程度の問題があり、単元末には重要語句のまとめがキーワードや教科書の参照ページなどと共に分かりやすく簡潔にまとめられていました。単元末問題はきれいな図と共に2ページありました。特に「読解力問題」という思考力や表現力をみる問題がありよいと感じました。

第2の観点の「関心・意欲を高め、主体的な学習活動を促すための工夫」は、各社共、振り返りや練習問題に教科書の参照ページを付け、生徒自身が教科書に戻って学びを確認できるよう配慮されていました。特に、小学校を含めた既習事項の確認をしながら、次の学びを引き出す工夫が見られ、理科だけでなく、算数や家庭科などにまで及んでいました。

第3の観点の「個に応じた指導の工夫」では、各社共、様々な考えを例示したり、実験や観察の方法を複数提示したりするなど、工夫していました。

東京書籍は、学習のヒントや重要な点をキャラクターの吹き出しの中に示したり、既習事項を確認したり、個に応じた指導ができるよう工夫していました。

大日本図書は、単元の導入で、「これまでに学習したこと」と「これから学習すること」をはっきり示し、単元全体の見通しをもちやすくしていました。必要に応じ、小学校算数の復習が掲載されており、個への対応としてよいと思います。また、「サイエンスランド」というクイズのような問題を提示し、理科の苦手な生徒にとっても興味が沸くような配慮がありました。

第3の項目「構成・配列・分量」については、第1の観点の「教材の配列・系統性及び教材相互の関連性について、どのような特色があるか。」については、東京書籍は、静電気

など、静電気が起きやすい冬に配置するなど、季節を考えた単元の配列となっていました。しかし、物理・化学・生物・地学は、どの学年もほぼ同じ配列になっており、同時期に同じ備品を使うこととなり、支障が出るのが予想されます。

大日本図書は、単元の構成は、物理・化学・生物・地学の学習が他学年と重ならないよう、学年でずらした配列となっており、配慮されておりました。これにより、同時期に化学や物理の実験が重なることがなくなり、理科室の備品が不足するといった事態を回避することができ、よいと感じました。

第2の観点の「単元の分量には、どのような特色があるか。」は、各社共同じような分量でした。

第4の項目の「表記・表現」の観点「挿絵、写真、グラフなどの表示や、観察、実験の手順などの表記、表現には、どのような工夫がみられるか。」については、各社共、きれいな写真やグラフ、イラストを用い、工夫をしていました。

東京書籍は、単元の始めには、きれいな写真が見開きで掲載され、途中で掲載されている写真も質が高いと感じました。イラストや図もきれいで、生徒にとって親しみやすいと思われれます。キャラクター等も効果的に使われていました。実験・観察は濃い色枠で囲まれており、解説と区別が付き、分かりやすくなっていました。実験・観察の注意は、マークと共に朱書きしてありましたが、あまり目立つ色遣いではありませんでした。

大日本図書は、写真やイラストが分かりやすく、きれいでした。先生のキャラクターや生徒の吹き出しなどを効果的に用いており、生徒にとって親しみやすいと感じました。実験・観察は色枠で囲まれており、解説と区別が付き、わかりやすいと感じました。実験・観察の注意は黄色い枠に書かれており、たいへん意識しやすく工夫が感じられました。

第5の項目の「体裁・使用上の便宜」の観点「文字の大きさ、書体、表紙、見返し等の体裁や装丁等は、どのように配慮されているか。」については、啓林館が別冊のノートを付けている以外は、各社、大きな違いはありませんでした。星座早見やピンホールカメラ等の工作物を添付しているものもありましたが、小さく、あまり評価はできませんでした。

東京書籍と啓林館だけ、1学年の教科書の文字を、他学年と違う大きいものを使っていました。小学校とのつながりを考えても、さほど効果は感じられず、文字が大きい分、掲載すべき情報が少なくなったり、図が小さくなったりしてはいないか、気になりました。

以上でございます。

<会長>

ありがとうございました。非常に詳細にわたって調査の報告ありがとうございました。それでは、ご質問等ございましたらお願いいたします。

ありませんか。

それでは、詳細に丁寧にありがとうございました。

理科調査部長退室

<会長>

大日本図書と東京書籍の2社について、それぞれ長短ありましたが、報告がありましたので審議をお願いいたします。

いかがでしょうか。このような観点からこの教科書がよいのではないかというご意見を承ります。

<委員>

2社を比べると、大日本図書の方が、実験・観察の結果整理が詳しく載っています。さらに、理科で大事なものは、材料を何を使うかということが大きな問題になってきます。実験しやすく安全で手軽に手に入る材料というようなことを見ると、全体的に大日本図書の方が実験・観察がしやすい、子ども達に理解しやすい、そのように感じとれます。

<会長>

ありがとうございます。今のご意見については、茨城県は化学実験を大事にする方策をたてています。子ども達は実験は得意ではないし、なにより教師の方が苦手意識を持っていて、小学校では実験に取り組んでこなかったという部分もありましたので、手軽に実験ができるというのは極めて重要なことかなと思います。そういう意味で、何で実験をするか、ムラサキツユクサか何かという時に、手に入りやすい身近なもの簡単にできるものが盛り込まれているのではないかというご意見でした。

<委員>

調査報告書の表でいうと、構成・配列・分量のところの大日本図書の「各学年において、物理・化学・生物・地学の学習が重なり、実験器具や教材の使用が不都合にならないよう、学習分野の配列に配慮がみられる。」という点です。入れ替えればいけないかという考え方もあると思います。単元を入れ替えてやればぶつからないじゃないかという考え方もあると思いますが、そのままの流れでやって不都合がないというのは非常に利点ではないかと思います。このようなところまで配慮が行き届いているというのは、使いやすい教科書ではないかと思いました。

<会長>

ありがとうございました。その他、何かありませんか。

こういう点が東京書籍が優れているのではないかというご意見はありませんか。

それでは、大日本図書に決めてよろしいでしょうか。

異議なし

採択理由書（案）配布

<委員>

下から3つ目の○の「小学校算数の復習が掲載されており」というのはどういうことでしょうか。

<会長>

そうですね。調査部長さんに確認してみましょう。

理科調査部長入室

<事務局>

「小学校算数の復習が掲載されており」という部分は、これでいいのかという質問です。

<理科調査部長>

それは、小学校の算数の復習を載せて、この計算を使うと教科書の問題が解きやすいということです。1学年の教科書の83ページをご覧ください。右上に割り算の仕方が載っています。ここでは、質量をもとめる問題があつて割り算を使って解くようになっていますが、割り算の仕方をここに載せることによって、算数の苦手な子にとっても、小学校の学習に立ち返ってこの部分を理解しやすく説明をしている。今までこういうのはありませんでした。特に、個人差がでやすい算数・数学・理科、理科の特に計算領域において、小学校の関連する計算問題の解き方を載せている点は、非常に指導者にとっても振り返りやすいし、学習に生かせるということでございます。

<会長>

ありがとうございました。よろしいですか。

部長さんありがとうございました。

理科調査部長退室

<委員>

計算の具体的な方法については、文章をちょっと直した方がいいですね。

<会長>

算数のための復習ではないので、ここは誤解を生む。要するに理科の学習がスムーズにいくためにさかのぼって書いてあるということですね。「小学校算数の復習が掲載」というところは、違う方がいいですよ。

<委員>

文言を工夫していただければいいですね。

<会長>

他にはありませんか。よろしいですか。

それではそういうことでよろしく願いいたします。

理科教科用図書回収

音楽教科用図書配付

音楽調査部長入室

<会長>

音楽の審議に移りたいと思います。調査部長さんに調査の結果をご報告いただきたいと思ひます。

<音楽調査部長>

音楽部会での調査内容についてご報告させていただきます。

音楽部会では、教育芸術社と教育出版社の2社の教科書について調査をいたしました。

その結果をまとめたものがお手元の資料でございます。その資料をもとに、各教科書の特長についてそれぞれ4点ほどにまとめ、簡単にご報告させていただきます。

まず、教育芸術社の教科書についてご報告いたします。

この教科書の特長としましては、1つ目に、音楽を愛好する心情を育てるために、オリジナルの新曲や親しみやすい楽曲が多く掲載されているということです。

2つ目は、義務教育9年間で意識した構成配列になっており、歌唱・創作・鑑賞の3つの活動に分けて題材が設定され、ねらいが明確に示されていることにより、幅広く音楽の学習ができるように配慮されています。また、日本の伝統的な音楽や世界の諸民族の音楽についても段階的に構成され、限られた音楽の授業時間の中で無理なく取り組めるよう工夫されています。

3つ目は、器楽の教科書についても、基礎・基本を定着させた後に、様々な楽曲に挑戦できるような構成の工夫があり、どの生徒にも比較的容易に取り組めるようななじみの深い曲が数多く取り上げられております。

4つ目は、色覚特性や特別支援教育の視点から学習上重要な情報が確実に読み取れるように配慮されており、楽譜が見開きで表示され見やすくなっております。色合いがやさしい色合いで、シンプルな教科書となっております。

学習指導要領の趣旨に添いながら、基礎・基本をていねいに押さえ、年間35時間（1学年は45時間）週1時間という限られた時間の中で、無理なく取り組めるような構成になっている教科書であると思います。また、義務教育9年間で意識した構成配列になっているため、小学校での学習内容とリンクし、生徒の実態にあった教科書と言えるのではないのでしょうか。

次に 教育出版の教科書について申し上げます。

1つ目は、「音楽の要素、さまざまな音楽文化、歌い合わせ聴き深める喜び」の三つの柱で題材が構成され、バランスよく学習ができるよう配慮されております。

2つ目は、創作活動では、身近な食べ物を素材としたリズムやCMソングを創作させたり、鑑賞活動では日本の伝統的な音楽の特長などをもとにした体験的な表現活動を取り入れたりして生徒の興味・関心を高め、音楽への理解が深まるよう配慮されております。

3つ目、器楽の教科書については、我が国の伝統的な音楽に親しめるよう、さまざまな和楽器を取り入れたアンサンブルの楽曲が掲載されている。また、発展的な課題に挑戦しようとする生徒には、難易度の高い楽曲が多く載っているため、主体的に取り組むことができるように工夫されている。

4つ目は、カラフルな写真やイラストが多く使用され、生徒が音楽のイメージをもって学習できるように工夫されています。また、折り込みのページを使い、大きな写真や詳しい説明など、資料を充実させております。以上の4点があげられます。

専門的な内容がふんだんに盛り込まれ、音楽に対する興味・関心の高い生徒には、とても魅力的な教科書と言えます。音楽の教師が指導の参考資料として使いたいと話題になりました。

以上で、報告を終了させていただきます。

<会長>

ありがとうございました。それでは、ご質問等ありましたらお願いいたします。

<委員>

教育出版社の方の器楽で、篠笛をつくるのがありますが、中学校の音楽でこのような活動があるのですか。

<音楽調査部長>

興味関心を持った子が、それを見ながら作るということはあると思いますが、週1時間の授業の中でその篠笛作りに取り組んでは、内容が終わりません。そういう意味では、資料集として使うのは非常におもしろい、興味関心の高い生徒にとってはおもしろいのではないかと感じました。

<会長>

そのほか、ございませんか。

それでは、ありがとうございました。

音楽調査部長退室

<会長>

2社の中で、それぞれの特色についてお話いただきました。ご意見がありましたらお願いいたします。

<委員>

週1時間という限られた中で無理なく取り組める構成、それから小学校の学習内容にリンクして生徒の実態に合った教科書というのが現在も使っている教育芸術社の教科書。もう一つの方は、専門的な内容がたくさん入っていて、興味関心が高い生徒にはとても魅力のある教科書ということで、レベルが高いのかなと思いました。先生にとっての資料というような色合いが強いということならば、子どもにとってというところで、現在使っている教科書の方がいいのではというふうに聞かせていただきました。

<会長>

ありがとうございました。いかがでしょうか。

中学校は、秋頃、学校の行事として合唱コンクールを盛り込んでいると思います。これは、子ども達の心を育てるためにも集団力を高めるためにも有効な手段なので、どの学校も欠かしてないと思います。合唱を作り上げるためにも音楽の時間は使っていますから、今35～36時間と言いましたが、さらにその中でも純粋に教科書を使っただけの活動というのは少ないと思います。そのようなことも含めてお考えいただきたいと思います。合唱指導の中で十分に音楽の学習ができるので、教科書に従ってやらない部分があってもいいかと思っています。

特に、ご意見はありませんか。

それでは、教育芸術社の教科書ということでよろしいでしょうか。

異議なし

採択理由書（案）配布

<会長>

いかがでしょうか。

異議なし

音楽教科用図書回収

美術教科用図書配付

美術調査部長入室

<会長>

美術の審議に入りたいと思います。

調査部長さんからご説明をお願いしたいと思います。

<美術調査部長>

美術調査部会での調査内容についてご報告いたします。

美術調査部会では、調査報告書の通り開隆堂、光村図書、日本文教の3社の教科書について調査しました。最初に、調査報告書をもとに、各教科書の特長を簡単に説明いたします。

調査項目が1～5までありますが、まず、5の「体裁・使用上の便宜」について説明します。

開隆堂と光村図書はともに、2、3年を1冊にしているのに対し、日本文教は2、3年を2冊上・もとに分冊しているという違いがあります。2年間を通して学習を積み上げるという考え方とそれぞれの学年を新たにスタートさせたいという考え方の違いが明確に表れているといえます。どちらがよいか優劣を付けるのではなく、それぞれに良さがあると考えました。

もう一つは、印刷の発色の問題ですが、私達美術教育に関わる者として重要な要素であります。別々に見ていると気付かないのですが、並べてみると、紙の色や艶によって、あるいはインクの調整の仕方によって発色の違いがあることに気付くと思います。1学年の巻末部分にそれぞれ「色相環」というものがあります。開隆堂は55ページ、光村図書が62ページ、日本文教が56ページです。並べて見てみると明らかな色の違いに気付く

と思います。わかりやすいのは赤の左側の部分と輪の中のグラデーションのところですが、光村図書が一番くすんだ感じに見えます。それに対して、開隆堂と日本文教は鮮やかな感じ。比べてみると、発色の鮮やかさは、日本文教、開隆堂、光村図書の順になるであろうというのが調査部会の見解です。紙の色も一番白いのが日本文教かと思います。一番わかりやすいところを見てもらったのですが、全体としてどのページも同じように写真・図版は光村図書が若干色が劣っているかなという見解がございました。

次に、項目「4 表記・表現」ですが、美術という教科の特性上、題材名のデザインをはじめ、図版の見せ方、内容を分かりやすくレイアウトすること、言い換えれば、教科書そのものの美しさを大事な要素と考えています。これについても、開隆堂、日本文教の2社に比べ光村図書がデザイン性というか教科書としての体裁が、やや物足りない印象がありました。

その他、項目「1～3」については、調査報告書を見ていただき、詳しく説明することは省略させていただきたいと思います。

この先は、開隆堂、日本文教の2社について説明を続けたいと思います。

まず、日本文教から説明します。判型がA4ワイド判になり、見開きで4cm程度大きくなりました。図版や文字情報がより見やすくなり、使いやすさが向上したといえるでしょう。また「目次」の見やすさ、各ページのレイアウトにも様々な工夫があり、教科書としての機能性を大切にしながらも、デザイン性が高いという評価をしました。

それから、何と言っても使用する生徒や教師にとっての使いやすさを大切にする配慮が様々あるということです。1題材を見開きにして、必要に応じて他の題材や巻末資料を確認できるなどの工夫があり、生徒作品の「作者の言葉」も多く掲載されている点が優れていると考えました。31ページをご覧ください。右上に「作者の言葉」というのがあって、生徒の思いがわかるようになっています。それから、美術の授業では鑑賞の授業を大事にしていますが、特に、2・3上教科書の26～29ページに、原寸大で和紙に印刷した「葛飾北斎の浮世絵」は、これまでの教科書ではなかったもので、和紙の風合いを触って実感できる工夫と言えます。また、サイズが大きいので、生徒が見たときに感動があることも含め、他社にはなかった大きな特長と感じました。

次に、開隆堂の説明をします。紙の厚さが3社の中で最も厚く、発色は鮮やかで印刷が美しいこと、様々なページデザインの工夫が見られることが挙げられます。

日本文教と違う点は、現代美術作家の作品を多く取り上げ、「作者の言葉」では、日本文教が生徒の言葉だったのに対し、作者の言葉を作品解説の中に加えた質的に高い内容であることを挙げました。

それから、巻末や各題材における資料が豊富になっていることを挙げました。

1学年の26ページをご覧ください。27ページが全体の絵で、26ページは原寸大です。原寸ギャラリーにより、鑑賞学習の深まりが期待できることを挙げました。

美術調査部会の報告を終わります。

<会長>

部長さんにお聞きになりたいことがありましたらお願いいたします。

よろしいですか。

たいへん詳しい調査結果をありがとうございました。

美術調査部長退室

<会長>

今の説明の中で、日本文教と開隆堂の教科書を考えていけばいいのかなと思いますが、ご意見をお伺いしたいと思います。

<委員>

美術は感動だなと思いました。日本文教の教科書を見て、まず表紙に感動しました。「出会いと広がり」とか、「美の探求」とか思いがあって作られているのがわかりますし、中もたいへんきれいで自分も描いてみたいなという生徒の意欲が引き出されるかなと思いました。私は、日本文教がいいと思いました。

<会長>

ありがとうございました。いかがでしょうか。

<委員>

色がきれいなのがいいですね。

<会長>

本物を見る機会はなかなかないので絵に興味を持つという意味でも大きな感動があった方がいいのだろうということだと思います。それでは、日本文教でよろしいですか。

異議なし

採択理由書（案）配布

<会長>

いかがでしょうか。

<委員>

いいと思います。

<会長>

よろしいですか。

異議なし

<会長>

それではこれで決定いたします。

美術教科用図書回収

保健体育教科用図書配付

保健体育調査部長入室

<会長>

保健体育の調査部長さんからご説明をお願いいたします。

<保健体育調査部長>

保健体育部会での調査内容について報告させていただきます。

保健体育部会では、東京書籍、大日本図書、大修館、学研の4つの教科用図書について調査をいたしました。まとめたものがお手元の資料になります。この資料をもとに、各教科書の特長について簡単にご報告させていただきます。

最初に東京書籍です。この教科書は各章の最初に「今日の学習」が明示されており、小学校での学習の振り返り、そして中学校で学習することがわかりやすく書かれています。6ページをご覧ください。体の発育発達のところをご覧くださいと、「今日の学習」さらにキーワードとして器官とか発育の個人差というのがあります。11ページをご覧ください。「やってみよう」や「読み物」がでてきたり、かわいらしいマスコットキャラクターや吹き出しを使って説明を行ったりしています。非常にわかりやすく自主的に学習に取り組めるように工夫されているのが特長です。「今日の学習」「キーワード」「やってみよう」「考えてみよう」など、同じようなかたちでページが工夫されています。また大きさは、今までの教科書に比べると大型のA B判を採用しています。

次に大日本図書です。各章のはじめに「今日の学習課題」が提示され、学習の流れの見通しを持たせるようになっていきます。例えば4ページをご覧ください。ここでは「運動やスポーツはどのような理由で行うのでしょうか」という課題が出されます。そしてすぐもとに「考えよう」があり、「運動やスポーツを行って楽しいと感じるのはどんな時で

しょうか」というように導入で投げかけるわけです。身近な疑問から学習を始めて、多くの写真やイラスト等の資料を入れて興味関心が高まるように工夫されています。次に18ページをご覧になってください。各章の最後に「学習のまとめ」があり、重要な事項などの覚えるべきことを再確認しやすくしています。

次に大修館です。60ページをご覧になってください。「心と体のかかわり」という單元ですが、学習の導入でキーワードを示して学習内容を確認させます。また61ページには「コラム」というのがありますが、簡単な読み物資料を入れたりしています。次に65ページをご覧になってください。「トピック」を挙げて、「心も“かぜ”をひく」というようなことで、『一体どういうことなの?』と子ども達が興味を引くような資料を入れたりしています。

最後に学研です。8ページ、9ページをご覧になってください。章ごとに必ず2ページの見開きを使っています。ここでは「心身の発達と心の健康」ということですが生涯スポーツに繋げる配慮がなされています。「小学校で学習したこと」「高校で学習すること」の項目をあげ、系統的な学習を考えさせています。18ページをご覧になってください。内容的には各章ごとに「学習の目標」から入り、「ウォームアップ」「エクササイズ」「活用しよう」の構成で主体的な学習を進めやすいのが特長です。また原則的に本文を各ページの左側に、資料を右側に配置し見やすくしています。ユニバーサルデザインといわれますが、障がいを持っている子がいても、同じようなまとめ方がされているので安心感があるということがいえます。指導する教師側にとっても使いやすく見やすい教科書になっている。また「情報サプリ」「リンク」「コラム」などのマークを示し、より多くの知識や情報自身につけられるよう工夫しています。大きさは東京書籍よりはやや小さめで、今までと同じB判サイズです。

続きまして、調査していく中で話題になった2社については、保健体育の教科書という見方で見ると学研と東京書籍は保健編から始まって後半に体育編の構成になっているのに対し、大修館と大日本図書は体育編から始まるよう構成されています。これは保健学習の充実が本県の課題であることから大切な部分であり、学研、東京書籍がよいのではないかということでした。

以上で報告を終了させていただきます。

<会長>

ありがとうございました。それでは質問がありましたらお願いいたします。

<委員>

保健は週1時間ぐらいやるんですか。

<保健体育調査部長>

学年によって違いますが、週1まではやりません。

<委員>

保健編と体育編に分かれているということですが少ない時間でも終わるのですか。

<保健体育調査部長>

この1冊が1学年ではなくて、1冊が3学年分ですので終わるようになります。終わらさなければいけません。

<会長>

その他、ありませんでしょうか。

よろしいですか。

詳しい調査をしていただきましてありがとうございました。

保健体育調査部長退室

<会長>

4社の調査の結果でしたが、茨城県の子供達の実態を考えると、学研と東京書籍が保健編から入っているのよいかという話だったかと思います。その辺に絞り込んでお話をいただきたいと思います。

<委員>

私の市では健康都市を宣言しておりまして、保健学習を大事にしていきたいと思っていますところで、がん教育を進めようとしているところです。学研と東京書籍の教科書を比較してみると、学研の方は「がん」という項目がありまして目次にも「がん」という言葉がでてきます。そこのところだけ比較してみたのですが、学研の方がいいと思います。

<会長>

ありがとうございました。いかがですか。

例えば、東京書籍の保健編の第4章のところで「喫煙の害と健康」という項目がありまして、喫煙・飲酒・薬物乱用の要因と適切な対処ということで、取り扱っている内容が違うからこのように分けているのだと思いますが、繰り返し出てくる部分が多いかなと思います。果たしてこれだけの学習内容がマスターできるのかどうか、3年間で学ぶものにしてみると数的に非常に多いように思います。学研は目次でみると30項目ぐらいあります。東京書籍は50項目ぐらいありますか。

今でているご意見としては、一つは健康ということこれから重視していかなければならない中で、その中で特になん教育というのは茨城県の中ではこれから重視されるのではないかということ考えると、きちんとでている教科書の方がいいのではないかというお話がありました。

<委員>

今使っている学研の教科書は、系統的にそのようなことが書いてあるので、保健の授業をやるには効果的なのかなと思いました。

<会長>

ほんとに限られた少ない授業時数の中で保健学習をしていくということ考えると、見やすく、見開きで1時間の学習ができるということ、それから多すぎない資料であるということを含めると、使いやすいのではないかということでした。

それでは他にご意見がないようですので、学研の教科書ということでよろしいでしょうか。

異議なし

採択理由書（案）配布

<委員>

「保健編を学年順に配列し」というのが下から4番目に挙がっていますが、先ほどの調査部長さんの説明を聞くと、順位を上には上げた方がいいのかなという感じがしました。

<会長>

構成上のことですが、どのようにすればよろしいですか。1番上にしますか。

<委員>

項目の順番でいくと下ですね。そういうことであれば、このままでいいと思います。

<会長>

書かれているのは順番に書かれているのだと思います。そのほかにご意見ございますか。

<委員>

がん教育に関しては入れなくてもいいですか。

<会長>

がん教育に関しては、それだけをひとつ取り上げなくてもよろしいかと思えます。
それではこれで採用させていただきます。

異議なし

保健体育教科用図書回収

技術教科用図書配付

技術調査部長入室

<会長>

技術の調査部長さんからご説明をお願いいたします。

<技術調査部長>

技術部会での調査内容についてご報告させていただきます。

技術部会では3社の教科書について調査し、その結果をまとめたものがお手元の資料です。その資料をもとに、各教科書の特長について簡単にご報告させていただきます。

まず、東京書籍の主な特色としては、1の項目で「学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択」の観点、「ものづくりなどの実践的・体験的な学習を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるために、どのように配慮されているか。」において、写真や説明資料により、生徒が学習のポイントに気付きながら基礎的・基本的な知識及び技術を習得できるよう配慮されています。また、学ぶべき技能を「基礎技能」としてまとめ、いつでも学ぶ事項を見て確認できるよう配慮されていることがあげられます。

次に「技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深めるために、どのように配慮されているか。」の観点では、今後の技術の在り方を考えられるような図やグラフを掲載し、生徒が技術と社会や環境とのかかわりを理解しやすいよう配慮されています。また、本文などに「環境マーク」などを用いて環境や社会とのかかわりを示し、生活との関連や結びつきを常に考えられるよう配慮されていることがあげられます。

「技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てるためにどのように配慮されているか。」の観点では、技術を評価するための資料やワークシートを掲載し、生徒が技術を適切に評価するための視点を身に付けられるよう配慮されています。また、評価・活用に関する内容を、各内容ごとに「技術の天びん」として技術のもつプラス面とマイナス面を比較して評価できるよう配慮されていることがあげられます。

次に2の「内容の程度及び取り扱いの項目、「<基礎・基本の定着のための工夫>の基礎

的基本的な知識及び技術を習得するために、取り扱う題材や実験等はどのような工夫が見られるか。」の観点では、生徒にとって身近な材料を扱った実験や実習を通して、基礎的・基本的な知識及び技術を習得できるような工夫が見られます。また、身近なものや防災に関する題材や実験例を取り上げ、関心を高めるとともに、技術の習得のための工夫が見られることがあげられます。

「＜関心意欲を高め・主体的な学習活動を促すための工夫＞の関心や意欲を高め、主体的な学習活動を展開するために、どのような工夫が見られるか。」の観点では、学習の流れを統一的に示し、生徒が学習の見通しをもちながら活動に取り組めるような工夫が見られます。誌面を拡大し技術に関する情報を増やしたり「ひとくちQ」を各ページに取り入れたりするなどにより、興味関心をもつことができるような工夫が見られます。また「リンク」や「他教科」「小学校」のマークを用い、既習事項や今後の学習を関連付けて考えることができるよう配慮されていることがあげられます。

「技術と社会や環境とのかかわりを扱う上で、どのような工夫が見られるか。」の観点では、技術と環境、経済、社会とのかかわりや新しい技術の開発に関する内容を編末に取り上げ、生徒の関心が高められるような工夫が見られます。また、89ページ、145ページ、189ページ、253ページにワークシート例を掲載し、生徒がまとめやすいようにする工夫が見られることなどがあげられます。

次に教育図書の主な特色としては、1の項目で「学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について」観点「ものづくりなどの実践的・体験的な学習を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるために、どのように配慮されているか。」においては、具体的な加工法を図や写真を整理して大きく掲載し、生徒が基礎的・基本的な知識及び技術を習得しやすいよう配慮されています。「基礎技能・知識」のコーナーを示し、確認できるような配慮がされています。また、作業時の「注意」や「コツ」を取り入れ、具体的な技能を習得できるよう配慮されていることがあげられます。

次に「技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深めるために、どのように配慮されているか。」の観点では、生活上の課題を解決する視点で考えるための資料を掲載し、生徒が技術と社会や環境とのかかわりを理解できるよう配慮されています。主に、エネルギー変換や生物育成の内容で、社会や環境とのかかわりについて示し、結びつきを考えられるよう配慮していることがあげられます。

次に2の「内容の程度及び取り扱い」の項目では、「＜基礎・基本の定着のための工夫＞の基礎的・基本的な知識及び技術を習得するために、取り扱う題材や実験等はどのような工夫が見られるか。」の観点では、題材例を多く取り上げたり、材料に応じた製作課題を取り上げたりすることを通して、生徒が実践的・体験的に基礎的・基本的な知識及び技術を習得できるような工夫が見られることがあげられます。

次の観点「＜関心意欲を高め・主体的な学習活動を促すための工夫＞関心や意欲を高め、主体的な学習活動を展開するために、どのような工夫が見られるか。」では、実習過程を細

かく示し、生徒が実習例の写真や図を参考にしながら活動に取り組めるような工夫が見られます。また「調べよう」「やってみよう」「考えよう」のコーナーを設けて、生徒が主体的に取り組めるような工夫が見られることがあげられます。

「技術と社会や環境とのかかわりを扱う上で、どのような工夫が見られるか。」の観点では、技術と社会や環境が互いに影響を及ぼし合う事例を取り上げ、新しい技術と関連させながら学習を進められるような工夫が見られることがあげられます。

最後に開隆堂の特色については、1の項目で「学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択」の観点「ものづくりなどの実践的・体験的な学習を通して、基本的な知識及び技能を習得させるために、どのように配慮されているか」において、図や生徒目線での写真を組み合わせて掲載し、生徒が基礎的・基本的な知識及び技術を習得しやすいよう配慮されています。

また、「考えてみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」という様々な問いから、それらを解決するために必要な知識や技術を学ぶことができるよう配慮されていることがあげられます。

次に「技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てるためにどのように配慮されているか」の観点では、技術の生かし方を考える具体例を掲載し、生徒が技術を評価し活用するための視点を身に付けられるよう配慮されています。各内容ごとに評価・活用の内容を示して、理解を深めることができるよう配慮されています。また、学習内容を「ふり返ろう」「生活に生かそう」という視点で、評価・活用をする工夫が見られることがあげられます。

2の「内容の程度及び取り扱い」の項目、「＜基礎・基本の定着のための工夫＞の基礎的・基本的な知識及び技術を習得するために、取り扱う題材や実験等はどのような工夫が見られるか。」の観点では、生徒の関心を高める実習を通して、基礎的・基本的な知識及び技術を習得できるような工夫が見られます。作業時の手元の写真を多く取り入れ、生徒の目線で実習・実験などができるような工夫が見られることがあげられます。

次の観点「＜関心意欲を高め・主体的な学習活動を促すための工夫＞関心や意欲を高め、主体的な学習活動を展開するために、どのような工夫が見られるか」では、ものづくりの過程について写真やイラスト等で示し、生徒が学習の見通しをもちながら活動に取り組めるような工夫が見られます。学習の目標が明示されるとともに、「豆知識」が各ページに掲載され、興味・関心を高める工夫が見られます。「リンク」を設定し、他の学習内容や家庭分野、他教科の内容との関連付けを図る工夫が見られることがあげられます。

次に「習得した知識と技術を生活に生かす観点から、発展的な内容にはどのような工夫が見られるか。」の観点では、発展的な実習例を設定するとともに、学習内容を生かすための課題を内容の終わりに示すなどの工夫が見られます。「参考」や「発展」を用いて、学習内容から発展して知識や理解を深めるための工夫が見られることがあげられます。

4の「図、さし絵、写真、資料等の表し方、さらに目次、見出し、マーク、キャラクタ

一、吹き出し等には、どのような工夫が見られるか。」の観点においては、実習する生徒の目線での写真やイラスト、図版を用いて説明したり、各頁もとに「豆知識」を設けたりするなどの工夫が見られることがあげられます。

以上3社の特長についてご説明いたしましたが、どの教科書も基礎的・基本的な知識及び技術を習得する上では、申し分ないものでありますが、さらに生徒の主体的学習を促し、発展性があり、社会や家庭生活及び環境という観点で調査をしていく中でまとめた2社の教科書について、説明をさせていただきます。

東京書籍の教科書については、1点目は、基礎的・基本的な知識及び技術について、学習のポイントに気付きながら習得できるように工夫してまとめ、また、技術を適切に評価・活用することができるよう「技術の天秤」コーナーを用いるなど、主体的に学習できるように配慮されています。

2点目は、生徒が技術と社会や環境とのかかわりを理解し、今後の技術の在り方を考えられるような内容・構成を工夫するとともに、実践的な態度が身につくよう、「環境」「発展」コーナーを用いるなどの配慮がされています。

3点目は、各内容項目において学習の流れを統一的に示し、学習内容ごとに学習目標を明示するなどにより、生徒が学習の見通しをもって学習活動に取り組むことができるように工夫がみられます。

4点目は、大判にして情報量を増やし、写真やイラストを用いて作業の手順等を見開きで説明したり、脚注を用いて用語を説明したりするなどの工夫が見られます。また、写真やイラスト、文字の大きさや太さ、色などを工夫して紙面が見やすいように配慮されています。

次に、開隆堂の教科書については、1点目は、基礎的・基本的な知識及び技術について、図や生徒目線での写真を組み合わせてわかりやすく示すとともに、「探究」により技術を評価・活用しやすいよう配慮されています。

2点目は、生徒が技術と社会や環境とのかかわりを理解できるよう、持続可能な社会の実現に向けた取組等の資料を掲載したり、「環境」コーナーを設けたりするなどの工夫が見られます。

3点目は、学習の内容ごとに学習の目標が示され、めあてを明確にして学習できるように工夫されています。また、「ふり返り」により、基礎的・基本的な知識及び技術について随時、学習内容を確認することができるように配慮されています。

4点目は、実習などの様子について、作業する生徒の手元を写した写真を用いるなど、生徒の目線でわかりやすく示すとともに、イラストや図版、文字の大きさや太さを工夫し、紙面を見やすくするよう配慮されています。

以上で、報告を終了させていただきます。

<会長>

皆さまからご質問等ありましたらお願いいたします。

よろしいですか。

詳しい調査をしていただきましてありがとうございました。

技術調査部長退室

<会長>

3社の中で、東京書籍、開隆堂の2社について調査部長さんから詳しいご説明をいただきましたが、ご意見等ございましたらお願いいたします。

<委員>

どちらの教科書も基礎的・基本的な知識技能を習得する上では申し分なく、また主体的に学習できるよう工夫されているということでしたが、「技術の天びん」「環境」などのマークを表示して学習の視点を明確にする工夫がみられるということで、東京書籍の方がいいと思いました。

<会長>

他にご意見はございますか。

それでは、東京書籍の教科書ということでよろしいでしょうか。

異議なし

採択理由書（案）配布

<会長>

いかがでしょうか。

<委員>

いいと思います。

<会長>

よろしいですか。

異議なし

<会長>

それではこれで決定いたします。

技術教科用図書回収

休憩

家庭教科用図書配付

家庭調査部長入室

<会長>

家庭の調査部長さんからご説明をお願いいたします。

<家庭調査部長>

家庭部会での調査内容について報告いたします。

家庭部会では3社の教科書について調査をしました。各教科書の特長について報告いたします。

始めに、東京書籍の教科書についてです。「基礎技能のページ」が設けられ、基礎的・基本的な知識や技術の定着、基礎から発展へと段階的に学ぶための配慮がされています。

また、生徒が個性を生かし、主体的な学習活動を進めるための作品例や実践例も豊富に掲載され、製作の流れやポイントについても具体的に示されるなどの工夫がみられます。

教科書のサイズ（紙面）が大きくなり、実物大の写真やイラスト、資料等の充実が図られています。

「生活の課題と実践」では、問題を解決する道筋を具体的に示したり、実践のまとめ方を多様な方法で示したりと、生徒の興味や関心に応じた学習ができるように工夫されています。

続いて、教育図書の教科書についてです。内容B「食生活と自立」と内容C「衣生活・住生活の自立」では、具体例が多く示されています。114ページから133ページ、210ページから219ページに「つくってみよう」というページで掲載され、個性を生かした製作等での配慮がみられます。

また、各章の導入ページに「自立度チェック」や「クイズ」があり、学習に入りやすいような工夫がされています。各題材には、統一標記Qやキーワードチェックが記載され、ポイントを押さえて学習することができるよう配慮されています。実習の手順がわかりやすいように、写真やイラスト、資料も多く掲載されています。

最後に、開隆堂の教科書についてです。題材ごとに、環境問題を発展的に考えることができるよう、身近に実践できる例が具体的に示されています。

実習や科学的視点に立った実験も各題材の中で多数設定され、実感を伴った学びができるよう配慮されています。

さらに、小題材ごとに、「学習の目標」をうけ、自己評価としての振り返りや生活に生かすことができる構成の工夫がされています。

内容に関連した写真も多く取り上げられ、興味・関心をもって学習に取り組むことができるように配慮されています。

調査を進める中で、特に話題になった2社の教科書について、説明を加えさせていただきます。

東京書籍の教科書は、ガイダンスのページが12ページと豊富で、また、小学校での学習内容との関連も具体的に記載されています。さらに、基礎技能のページもあり、基礎技能を押さえながら段階的に学ぶことができるよう内容が組み込まれ、基礎的・基本的な知識や技術が習得できるよう配慮されています。実物大写真、写真資料、イラスト等、具体例も示され理解しやすくなっています。

実習等については見開きページになっており、手順やポイントも写真に合わせて記載されています。また、251ページからの「生活の課題と実践」では、課題解決の手順が示され、さらに、生徒がまとめていく上で参考となる資料や各編ごとの最後には、学習の振り返りだけでなく「大切な用語」、巻末には「生活の中の独特の言い回しや名称」もあり、言語活動の充実の面でも配慮が見られます。

内容の配列も、生徒の興味関心に合わせたBの内容「わたしたちの食生活」から学習するよう配列されているという大きな特色があります。

写真や図は、確認しやすい大きさと作業の手順が理解できるような工夫が見られます。多様なマークを用い見やすいような工夫が見られます。

教科書のサイズが大きくなり、色分けされたインデックスによって各編や項目等の検索もしやすくなっています。

開隆堂の教科書については、「発展」や「探求」、「持続可能な社会をつくる」についてのページが各章ごとにあり、発展的な内容についての工夫が見られます。

また、実験や実習、調べ学習を多く取り上げ、実感を伴った学びとなるよう配慮されています。

さらに、実習事例や作品例を多く取り入れることによって、学習が主体的に進められるような工夫や自己評価としての振り返りや生活に生かすことのできる構成の工夫が見られます。

項目ごとにページの、配色が工夫されています。また、多様なマークや吹き出しも多く使用され、興味をもって学習に取り組めるような工夫が見られます。

以上で、報告を終わらせていただきます。

<会長>

部長さんにお聞きになりたいことがありましたらお願いいたします。

よろしいですか。

たいへん詳しい調査結果をありがとうございました。

家庭調査部長退室

<会長>

今の説明の中で、東京書籍と開隆堂の教科書を考えていけばいいのかなと思いますが、ご意見をお伺いしたいと思います。

<委員>

東京書籍は、AB判になったことで見やすくなっていると思います。

<委員>

「考えてみよう」「やってみよう」「話し合ってみよう」という構成がいいと思いました。

<委員>

東京書籍は、魚の調理のところで、魚の下ごしらえが詳しく載っていていいと思います。

今の子ども達は、魚の下ごしらえなどはしないですね。そういったところで、体験するという事は大切なことかと思えます。

<会長>

そうですね。今の子ども達は、丸ごと一匹の魚などを目にする機会も少ないかもしれません。

そういった意味では、多くのことを体験することは、必要ですね。

他にご意見はございませんでしょうか。

意見をまとめますと、東京書籍がよいという意見ですが、東京書籍の教科書でよろしいですか。

異議なし

採択理由書（案）配布

<会長>

いかがでしょうか。

<委員>

いいと思います。

<会長>

よろしいですか。

異議なし

<会長>

それではこれで決定いたします。

家庭教科用図書回収

英語教科用図書配付

英語調査部長入室

<会長>

英語の調査部長さんからご説明をお願いいたします。

<英語調査部長>

今回の教科書調査分析に当たって、6社刊ございました。

定められている調査項目を総監しますと「英文内容・英語指導のための材料・体裁等」となりますが、最もその差の大きい部分は「指導のための材料等」に係る部分です。

東京書籍の New Horizon と開隆堂の Sunshine をご説明いたします。

New Horizon 1 の 2 2 ページと Sunshine 1 の 2 4 ページをお開きください。同じ 1 学年の最初の学習であります、I am …… (私は) と名前を自己紹介する言い方の学習です。

「指導のための材料」配置の違いの一つに、学習者に「学び、身に付ける内容」をどのように示すかということがあります。

左上の冒頭部分の目標の示し方に、編集方針の差があります。本課全体の目標を掲載する New Horizon と各ページの目標をその都度示す Sunshine です。学習者がより広い範囲で、「身に付けるべきこと」を掲載することが目指され、自分で「どんなことが表現できるようになったか」ととらえ、指導者も評価することが文部科学省の推し進めます CAN-DO リストの考え方です。そのページでできたときに評価されるのではなく、一定の言語活動中に用いることができたかどうかを言語指導における達成の評価となります。Horizon が適した評価方法を生徒と教員に示しています。「わかった、できた」とテストでできても運用できないということ、事実を直視して改善していくことが理解されています。

ページの冒頭に目標文があり、教員が運用練習をさせることが当たり前として左ページに練習がある Sunshine と、英文を聞いて内容を推測して、新しい言い方を身に付けることが必然として生徒に分かるように、課の本文が左ページにある Horizon と大きな違いがあります。

見開きでの印象としてもわかりやすいのですが、Sunshine は中学1年の最初の課として情報が多くて、小学校では基本的に扱わない英語の文字が多い印象です。小学校の英語活動とは、発話される英語を聞いて、自分も同じように発話してみる「活動」にひたることが基本で、習った英語を書き取って覚えるという「学習」ではありません。まず、中学校では文字を口頭表現を身に付けるための記憶の手段として始め、徐々に聞いてメモを取ったり、文章を書いて相手に伝えたりなどの言語活動に進んでいくわけです。小学校でも苦手意識が生じ始めている昨今に、最初から「難しい。教科書のすべてを理解できていないかもしれない。」と思わせたくないものです。3年間での総ページ数362と353と大きな差はないのですが、Horizon での142ページ以降、Sunshine の125ページ以降の付録部分に扱うことを余儀なくされる表現リストなどが、本課の込み入った印象と同様にあります。

「英文内容」についてお話いたします。どの教科書もその内容上の工夫がありますが、「環境」についての扱いが本地域の生徒にどのように関連するかがポイントになりました。

いかに、生徒の身近なかかわりで学ぶかという点で、Horizon の50ページの食べ残しへの言及は、従来のビンや古紙をリサイクルするという内容より印象的でした。その後の課の内容でも「この教室の空気はブラジル、アマゾンから来ているかもしれない。」という文も生徒の認識力との関係で効果的であろうとの声がありました。

「表記」についての分析では、おおむね低学年では活字が手書きのような文字を使い、高学年や読取題材では明朝体系の活字が用いられて、判読、視写に適しているといえる。各社に同様な部分で課題は、色が多用される中、デザイナーが描くキャラクターには色弱者への配慮が明確にあるが、編集部が強調するために英文に色をかける場合に、赤系と緑系の明度が近くて、違いの判別ができにくい部分があるとのことでした。全社に機会があれば改善を求めたいところです。

他の4社についての言及ができませんが2社に加えて、学校図書の Total English、三省堂の New Crown が本文内容、言語活動の扱いの優れた教科書でありました。

以上でございます。

<会長>

部長さんにお聞きになりたいことがありましたらお願いいたします。

<委員>

教科書が開隆堂から東書に替わることで、何か不都合なことはありませんか。

<英語調査部長>

特にないと思います。

<会長>

他にありませんか。

よろしいですか。

たいへん詳しい調査結果をありがとうございました。

英語調査部長退室

<会長>

調査部長さんの説明では、東京書籍の New Horizon と開隆堂の Sunshine の教科書が優れている中で、特に東京書籍の New Horizon の方がこの地域の子ども達に合っているようにも思えますが、ご意見をお伺いしたいと思います。

教科書が替ってハンディがあつてはと思いましたが、調査部長さんのお話では大丈夫だということでした。

<委員>

子ども達にとってよい方がいいと思います。

<会長>

それでは、東京書籍の New Horizon でよろしいですか。

異議なし

採択理由書（案）配布

<会長>

いかがでしょうか。

<委員>

文章表現の中で難しいところがあるので、もう少しわかりやすい表現がよいと思います。

<会長>

そうですね。確かにわかりにくいところがありますね。事務局の方でもう一度よく読ん

で、わかりやすい文章をお願いいたします。そういうことでよろしいでしょうか。

異議なし

<会長>

それではこれで決定いたします。

英語教科用図書回収

特別支援調査部長入室

<会長>

特別支援の調査部長さんからご説明をお願いいたします。

<特別支援調査部長>

特別支援教育部会での調査内容についてご報告させていただきます。

採択に当たっては、次の点に留意しました。

まず1点目ですが、採択に当たっては、障害の程度が比較的軽い児童・生徒をA型、障害の程度が比較的重い児童・生徒をB型に分類し、選定しました。A型は、検定済教科書当該学年用及び検定済教科書下学年用から主に選定し、B型は、特別支援学校（知的障害）用文部科学省著作教科書及び一般図書から選定することを基本としました。

2点目ですが、国語、算数・数学については、児童・生徒の能力や障害の程度に応ずるために、検定教科書下学年用及び特別支援学校（知的障害）用文部科学省著作教科書（☆本）の使用について考慮して選定しました。特に、学びの連続性という観点から、小学校と中学校との関連についても配慮しました。

3点目ですが、音楽については、検定教科書当該学年用を使用している状況と、児童・生徒の能力や障害の程度に応ずるために、検定教科書当該学年用及び特別支援学校（知的障害）用文部科学省著作教科書（☆本）について考慮して選定しました。また、書写については、検定教科書当該学年用を使用している状況と、児童・生徒の能力や障害の程度に応ずるために、検定教科書当該学年用及び検定教科書下学年用について考慮して選定しました。

4点目ですが、通常の学級との交流及び共同学習が可能と判断される教科、小学校では、書写、生活、音楽、図画工作、家庭、保健。中学校では、音楽、美術、技術・家庭、保健体育については、検定教科書当該学年用を使用できるよう配慮して選定しました。

5点目ですが、小学校の社会、理科、生活、図画工作、家庭、保健については、検定教科書当該学年用を使用している状況から、その系統性や児童の実態を踏まえ、検定教科書

当該学年用あるいは一般図書のいずれかを使用できるよう配慮して選定しました。

6点目ですが、中学校の社会、理科、美術、保健体育、外国語（英語）、技術・家庭については、検定教科書当該学年用を使用している状況から、その系統性や生徒の実態を踏まえ、検定教科書当該学年用あるいは一般図書のいずれかを使用できるよう配慮して選定しました。

7点目ですが、中学校の職業・家庭については、在籍生徒の実態を踏まえ、教科の特性、関連性等を考慮し、より具体的、実践的な内容を充たしていると思われる一般図書から選定しました。

具体的には、調査報告書の最後のページをお開き下さい。そこに、一般図書が掲載されています。

- 1・2年 ひとりでできるもん！5 すてきなおかし作り
- 1・2年 お料理大好き！ 新・こどもクッキング
- 1・2年 マンガでわかる よのなかルール
- 1・2年 イラスト版 子どものソーシャルスキル 友だち関係に勇気と自信がつく42のメソッド
- 3年 自立生活ハンドブック11（改訂版）ひとりだち
- 3年 自立生活ハンドブック 9（改訂版）あたらしいほうりつの本
- 3年 知的障害や自閉症の人たちのためのビジネスマナー
- 1～3年 やさいのうえかたそだてかた
- 1～3年 飼育栽培図鑑 はじめて育てる・自分で育てる

を候補としてあげました。

8点目ですが、一般図書については、児童・生徒の能力や障害の程度に応じて、文字、表現、挿絵、取り扱う題材などを考慮しつつ、選択の域を広げるため、可能な限り複数の図書を選定しました。また、在庫がなかったり、絶版になったりすることがあるため、可能な限り複数の図書を選定しました。

今年度新たに選定した小学校用図書は、

- 社会 3・4年 スカーリーおじさんのはたらく人たち
- 3・4年 子どものマナー図鑑（3）でかけるときのマナー
- 5年 読んで見て楽しむ 日本地図帳 増補改訂版
- 理科 3年 フレーベル館の図鑑ナチュラ1 こんちゅう
- 4年 フレーベル館の図鑑ナチュラ7 うちゅう せいざ
- 5・6年 12才までにやってみよう 発見いっぱい理科実験
- 図画工作 3・4年 あそびのおうさまずかん12 リサイクルこうさく
増補改訂

以上の7冊です。

今年度新たに選定した中学校用図書は、

社会（地理的分野）にっぽん探検大図鑑

外国語 1 学年 ことばのえほんABC

えいごえほん ぞうさんがっこうに行く

えいごえほん ぞうさんのピクニック

2・3年 ドラえものの英語おもしろ攻略 ゼロから始める英語

クレヨンしんちゃんのまんが英語入門ブック

CDつき ポケモンとえいかいわ

CDつき 小学校の英語レッスン 絵でみて学ぼう英会話

職業・家庭 3年 自立生活ハンドブック9 あたらしいほうりつの本

以上の9冊です。

調査内容の報告は以上です。

<会長>

今のご報告について質問等ありましたらお願いいたします。

よろしいですか。

それでは調査部長さんありがとうございました。

特別支援調査部長退室

<会長>

では審議に入ります。ここに出されたものがたくさんありますが、特にその中でこれはどうかなというものがありませんでしたらお願いします。

<委員>

「クレヨンしんちゃんのまんが英語入門ブック」というのは、これは教科書としてはどうでしょうか。どのような内容なのでしょう。

<会長>

どのような内容なのか調査部長さんに聞いてみましょうか。

特別支援調査部長入室

<会長>

委員さんの方から、「クレヨンしんちゃんのまんが英語入門ブック」について、教科書として不適切な表現等がないのかという意見があったのですが、いかがでしょうか。

今、この本はありますか。

<特別支援調査部長>

今はありません。

<委員>

テレビで見るクレヨンしんちゃんは下品なことを言うイメージがありますが、本の中でもそのような表現があるのでしょうか。もしあるのなら、この本を教科書として採択するのはどうでしょうか。

<委員>

2・3年生用として4冊候補にあがっていますが、クレヨンしんちゃんを除いた3冊では少ないのでしょうか。

<特別支援調査部長>

選択の域を広げるため複数選んでおりますので、少ないということはないと思います。

<会長>

他に聞いておきたいことはありますか。

ありがとうございました。

特別支援調査部長退室

<会長>

それでは、2・3年生の英語（B型）は、クレヨンしんちゃんを除いた3冊ということでもよろしいでしょうか。

異議なし

採択理由書（案）配布

<会長>

いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、「クレヨンしんちゃんのまんが英語入門ブック」を除いて、それ以外のものを採択ということでもよろしいでしょうか。

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書については一部修正していただくところがありましたが、中学校そして特別支援教育関係については議決が終わりました。

続きまして、小学校用教科用図書について確認をさせていただきます。

小学校教科用図書一覧配付

<会長>

それでは、小学校用の教科用図書についてですが、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律及び同施行令により、種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間は、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を採択する場合を除き、特に事情がない限り4年となっております。小学校用教科用図書は、平成27年度から採択されておりますので、現時点では特段の事情がないと思われまますので、平成28年度は今年度と同じものを採択することとなります。

続いて、採択結果及び理由等の公表について審議いたします。事務局より説明をいたします。

<事務局>

公表については、本年度規約が改正されましたので、改めて確認いたします。

資料の4ページ、5ページの規約の第5章をご覧ください。

情報開示については14条のとおりでございます。

本年度、新たに15条に述べられているように、

当該教科用図書の種類

当該教科用図書を採択した理由

第12条の第2項の資料

協議会の会議の議事録

が公表となります。

この公表の仕方について、ご検討いただきたく思います。

事務局では、次の2案を考えております。

案の1 すべてのデータを各教育委員会に送付し、Web上にアップしてもらおう。

案の2 「当該教科用図書の種類」「当該教科用図書を採択した理由」はデータで各教育委員会に送付し、Web上にアップ、報告書、議事録は事務局の委員会、茨城町でアップする。
です。

また、議事録に関しては茨城町で取りまとめた後、各教育委員会に確認をした後、公開

したいと考えております。規約には「速やかに」とありますが「当該教科用図書の種類」のアップより、遅くなることと思います。

以上です。審議のほどよろしく願いいたします。

<会長>

事務局より、公開についての説明がありましたが、委員の皆様の意見を伺いたいと思います。

<委員>

これだけの資料を掲示するとデータも大きくなるのではないのでしょうか？

<事務局>

そうですね。それなりの量になると思います。

<委員>

各市町委員会で掲示するよりも、事務局の一括管理で掲示した方が、管理的にも扱いやすいのではないのでしょうか。

<会長>

皆さんの意見をまとめますと、以下のようなになるかと思います。

「当該教科用図書の種類」「当該教科用図書を採択した理由」はデータで各教育委員会に送付し Web 上にアップ、報告書、議事録は事務局の委員会、茨城町でアップする。

でよろしいでしょうか。

それでは、第4採択地区の公表は、以上のようにいたします。

以上で全ての審議を終了いたします。その他、何かありますでしょうか。

では、以上で議事を終了いたします。

<事務局>

鈴木会長ありがとうございました。

それでは、事務局より要項にございます今後の予定について説明いたします。

<事務局>

各市町の教育長様には、本日の結果を、各市町教育委員会へ御報告お願いいたします。

今回採択されました教科用図書一覧表の電子データを、本日中に各市町の事務局様に電

子メールで送信いたします。

議決内容につきましては，7月31日金曜日までに，各市町教育委員会から議決をいただきますようお願い申し上げます。なお，議決が済みましたら，採択教科用図書一覧表を事務担当者にお渡しいただきたいと存じます。

各市町の議決の報告でございますが，同じく31日金曜日までに，文書で報告願います。なお，文書による報告が遅れる場合は，茨城町教育委員会学校教育課総務グループ宛，議決した旨，FAXにて連絡をいただければ幸いに存じます。

<事務局>

閉会のことばを，本選定協議会の副会長城里町教育委員会教育長 小林孝志様お願いいたします。

閉会のことば 副会長 城里町教育委員会教育長 小林孝志 様

閉会時刻 午後4時30分